



Cisco EPNM コマンドリファレンス

この付録には、すべてのタイプの Cisco Evolved Programmable Network Manager (EPNM) 環境を対象に、ディスク容量の管理に必要な情報が記載されています。また、Cisco EPNM に固有のコマンドの一覧がアルファベット順に記載されています。Cisco EPNM には、次のモードがあります。

- EXEC
 - システムレベル
 - 表示 (Show)
- コンフィギュレーション (Configuration)
 - コンフィギュレーションサブモード

コンフィギュレーションモードにアクセスするには、EXEC モードでシステムレベルの **config** または **configure** コマンドを使用します。

この付録では、コマンドごとに、その使い方の簡単な説明、コマンド構文、コマンドのデフォルト、コマンドモード、使用上のガイドライン、および 1 つ以上の例を示します。



(注) コマンドを使用してエラーが発生した場合は、**debug** コマンドを使用して、エラーの原因を特定してください。

- [EXEC コマンド \(1 ページ\)](#)
- [show コマンド \(76 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションコマンド \(109 ページ\)](#)

EXEC コマンド

ここでは、各 EXEC コマンドをリストします。各コマンドページには、その使用方法の簡単な説明、コマンド構文、コマンドのデフォルト、コマンドモード、使用上のガイドライン、およびコマンドと関連するコマンドの例があります。

application install

アプリケーションバンドルファイルをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを使用します。このコマンドの **No** 形式はありません。

application install *bundle-name remote-repository*

構文の説明

<i>bundle-name</i>	アプリケーションバンドルファイルの名前。最大 255 文字の英数字。
<i>remote-repository</i>	設定済みのリモトリポジトリの名前。最大 255 文字の英数字。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

関連コマンド

	説明
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application remove

アプリケーションをアンインストールするには、EXEC モードで **application remove** コマンドを使用します。このコマンドの **No** 形式はありません。

application remove *bundle-name remote-repository*

構文の説明

<i>bundle-name</i>	削除するアプリケーションバンドルファイルの名前。最大 255 文字の英数字。
<i>remote-repository</i>	設定済みのリモトリポジトリの名前。最大 255 文字の英数字。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをアンインストールします。

```
epnm-ha-imeir-prim/admin# application remove NCS
Continue with application removal? [y/n]
```

関連コマンド	説明
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application start

アプリケーションプロセスを開始するには、EXEC モードで **application start** コマンドを使用します。このコマンドの **NO** 形式はありません。

application start *application-name*

構文の説明	<i>application-name</i>	有効にする定義済みアプリケーション名 (255 文字以下の英数字)。
-------	-------------------------	------------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションをイネーブルにします。

このコマンドを使用して、Cisco EPNM アプリケーションを起動することはできません。このコマンドを使用してアプリケーションを起動すると、Cisco EPNM がすでに稼動していることが示されます。

```
epnm-system-168/admin# application start NCS
Starting EPNM...
This may take a while (10 minutes or more) ...
EPNM started successfully.
Redirecting to /bin/systemctl restart rsyslog.service
Completed in 1029 seconds
```

関連コマンド	コマンド	説明
	application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。

コマンド	説明
show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application stop

プロセスを停止するには、EXECモードで **application stop** コマンドを使用します。このコマンドの **No** 形式はありません。

application stop *application-name*

構文の説明

application-name

ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大255文字の英数字。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

```
EPNM-system-117/admin# application stop NCS
EPNM-system/admin# application stop NCS
Stopping EPNM...
This may take a few minutes...
EPNM successfully shutdown.
Stopping SAM daemon...
Checking for SAM daemon again ...
SAM Daemon not found...
Stopping DA daemon ...
Checking for DA daemon again ...
DA Daemon not found...
Completed shutdown of all services
```

関連コマンド

	説明
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application upgrade

アプリケーションバンドルをアップグレードするには、EXECモードで **application upgrade** コマンドを使用します。このコマンドの **No** 形式はありません。

application upgrade *bundle-name remote-repository*

構文の説明	<i>bundle-name</i>	アプリケーションバンドルファイルの名前。 最大 255 文字の英数字。
	<i>remote-repository</i>	設定済みのリモートリポジトリの名前。最大 255 文字の英数字。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
関連コマンド		
		説明
	application start	アプリケーションを起動またはイネーブルに します。
	show application	システムにインストールされているアプリケー ションパッケージのアプリケーション情報を 表示します。

backup

アプライアンスのバックアップ : バックアップ (Cisco EPNM と Cisco ADE OS データを含む) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存するには、EXEC モードで **backup** コマンドを使用します。

アプリケーションのバックアップ : Cisco ADE OS データのない Cisco EPNM アプリケーションのみのバックアップを実行するには、**application** キーワードコマンドを使用します。

アプライアンス バックアップ用のコマンド :

backup *backup-name repository repository-name*

アプリケーション バックアップ用のコマンド

backup *backup-name repository repository-name application application-name*

構文の説明	<i>backup-name</i>	バックアップファイルの名前。26 文字までの 英数字を指定することをお勧めします。
	<i>repository-name</i>	ファイルのバックアップ先となる場所の名前。 最大 80 文字の英数字。
	<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字。 (注) アプリケーション名を大文字で入力 します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Cisco EPNM および Cisco ADE OS データのバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。

Cisco ADE OS データのない Cisco EPNM アプリケーションのみのバックアップを実行するには、**application** コマンドを使用します。

アプライアンス バックアップの例

```
epnm-system/admin# backup Appliancebkp repository test
```

```
DO NOT press ^C while the backup is in progress
Aborting backup with a ^C may terminate the backup operation or the backup file may be corrupted
```

To restore this backup you will have to enter this password

Password :

Password Again :

```
Backup Started at : 11/27/18 19:08:57
Stage 1 of 7: Database backup ...
Database size: 7.1G
-- completed at 11/27/18 19:10:20
Stage 2 of 7: Database copy ...
-- completed at 11/27/18 19:10:20
Stage 3 of 7: Backing up support files ...
-- completed at 11/27/18 19:10:24
Stage 4 of 7: Compressing Backup ...
-- completed at 11/27/18 19:10:46
Stage 5 of 7: Building backup file ...
-- completed at 11/27/18 19:11:03
Stage 6 of 7: Encrypting backup file ...
-- completed at 11/27/18 19:11:09
Stage 7 of 7: Transferring backup file ...
-- completed at 11/27/18 19:11:11
```

% Backup file created is:

```
Appliancebkp-201203-1035__VER3.10.0.0.164_BKSZ11G_CPU4_MEM3G_RAM11G_SWAP15G_SYS_CK1242187374.tar.gpg
```

Total Backup duration is: 0h:2m:18s

```
epnm-system/admin#
```

アプリケーション バックアップの例

```
epnm-system/admin# backup Applicationbkp repository test application NCS
```

```
DO NOT press ^C while the backup is in progress
Aborting backup with a ^C may terminate the backup operation or the backup file may be corrupted
```

To restore this backup you will have to enter this password

Password :

Password Again :

```

Backup Started at : 11/27/18 19:13:33
Stage 1 of 7: Database backup ...
Database size: 7.1G
-- completed at 11/27/18 19:14:17
Stage 2 of 7: Database copy ...
-- completed at 11/27/18 19:14:17
Stage 3 of 7: Backing up support files ...
-- completed at 11/27/18 19:14:19
Stage 4 of 7: Compressing Backup ...
-- completed at 11/27/18 19:14:34
Stage 5 of 7: Building backup file ...
-- completed at 11/27/18 19:14:50
Stage 6 of 7: Encrypting backup file ...
-- completed at 11/27/18 19:14:55
Stage 7 of 7: Transferring backup file ...
-- completed at 11/27/18 19:14:56
% Backup file created is:
Applicationbkp-201203-1035_VER3.10.0.0.164_BKSZ11G_CPU4_MEM3G_RAM11G_SWAP15G_APP_CK1242187374.tar.gpg

Total Backup duration is: 0h:1m:26s
epnm-system/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>delete</code>	Cisco EPNM サーバーからファイルを削除します。
<code>repository</code>	バックアップ設定のリポジトリ サブモードを入力します。
<code>restore</code>	特定のリポジトリのファイルの内容をバックアップから復元します。
<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

backup-logs

システムログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs** コマンドを使用します。このコマンドの **no** 形式はありません。

backup-logs *backup-name* **repository** *repository-name*

構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つまたは複数のファイルの名前。最大 100 文字の英数字。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字。

banner

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン システム ログをバックアップします。

```
EPNM-admin/admin# backup-logs log-backup repository defaultRepo
% Creating log backup with timestamped filename: log-backup-150621-1618.tar.gz
  Transferring file ...
  -- complete.
EPNM-system/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	repository	バックアップ設定のリポジトリ サブモードを入力します。
	show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

banner

CLIにログイン中（ログイン前）のメッセージを設定するには、**banner install pre-login** コマンドを使用します。

banner install pre-login *banner-text-filename* **repository** *Repository-name*

構文の説明	<i>banner-text-filename</i>	バナー テキストのファイル名。
	<i>repository-name</i>	リポジトリ名。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
admin# banner install pre-login test.txt repository defaultRepo
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show banner pre-login (78 ページ)	ログイン前バナーを表示できるようにします。

change-password

CLI インターフェイスへのログインで使用するパスワードを変更するには、**change-password** コマンドを使用します。

change-password *password*

構文の説明	<i>password</i>	新しいパスワード (New password)
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
	<pre>eptm-system/admin# change-password Changing password for user admin. Changing password for admin. (current) UNIX password: New password: Retype new password: passwd: all authentication tokens updated successfully.</pre>	

clock

システムクロックを設定するには、EXEC モードで **clock** コマンドを使用します。この機能は削除できませんが、クロックはリセットできます。

clock set [*mmm dd hh:mm:ss yyyy*]

構文の説明	<i>mmm</i>	現在の月の名前。3文字までの英字で指定します。たとえば、January は Jan と指定します。
	<i>dd</i>	現在の日 (日付)。有効な値は 0 ~ 31 の範囲です。2桁までの数値で指定します。
	<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間 (24 時間形式)、分、および秒。
	<i>yyyy</i>	現在の年 (短縮表記しない)。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
使用上のガイドライン	システムクロックを設定します。変更を有効にするには、クロックをリセット後に Cisco EPNM サーバーを再起動する必要があります。	
	<pre>eptm-system-208/admin# clock set dec 4 12:00:00 2020 eptm-system-208/admin# show clock Fri Dec 4 12:00:10 IST 2020 eptm-system-208/admin#</pre>	

関連コマンド	コマンド	説明
	show clock	システムソフトウェアクロックに設定されている日付と時刻を表示します。

configure

コンフィギュレーションモードを開始するには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。このコマンドで **replace** オプションを使用すると、システムにリモート コンフィギュレーションがコピーされ、既存のコンフィギュレーションが上書きされます。

configure terminal

構文の説明	terminal	説明
		コンフィギュレーション コマンドを端末から実行します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、コンフィギュレーションモードを開始するために使用します。このモードでコマンドを入力する (**Enter** を押す) と、実行コンフィギュレーションファイルへの書き込みが実行されるので注意してください。

コンフィギュレーションモードを終了してEXECモードに戻るには、**end**、**exit** を入力するか、**Ctrl-z** を押します。

コンフィギュレーションの変更内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

例 1

```
ncs/admin# configure
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)#
```

例 2

```
ncs/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>show running-config</code>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。
	<code>show startup-config</code>	スタートアップコンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。

構文の説明		
	<code>running-config</code>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
	<code>startup-config</code>	初期化 (スタートアップ) 時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
	<code>protocol</code>	プロトコル キーワードのオプションについては、 表 1: プロトコルプレフィックスのキーワード (13 ページ) を参照してください。
	<code>hostname</code>	コピー先のホスト名。
	<code>location</code>	<code>disk:<dirpath></code> の場所。
	<code>logs</code>	システムのログ ファイル。
	<code>all</code>	すべての Cisco EPNM ログファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 <code>ncslogs.tar.gz</code> としてパッケージ化され、リモート ホスト上の指定されたディレクトリに転送されます。
	<code>filename</code>	単一の Cisco EPNM ログファイルをコピーし、そのファイルをリモートホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送できます。
	<code>log_filename</code>	show logs コマンドによって表示される Cisco EPNM ログファイルの名前 (255 文字以内)。

mgmt	Cisco EPNM 管理デバッグログと tomcat ログをシステムからコピーし、mgmtlogs.tar.gz というファイル名でバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
runtime	Cisco EPNM ランタイムデバッグログをシステムからコピーし、runtimelogs.tar.gz というファイル名でバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **copy** コマンドの基本的な機能として、1つの場所から別の場所に、ファイル（システムイメージやコンフィギュレーションファイルなど）をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先では、Cisco Cisco EPNM ファイルシステムが使用されます。サポートされているローカルまたはリモートファイルの場所をこのファイルシステムで指定できます。使用されているファイルシステム（ローカルメモリ ソースまたはリモートシステム）によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザー名とパスワードをコマンドラインに入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバーにプロンプトを表示させることができます。コマンドラインの送信元および宛先 URL 情報に最大 2048 文字まで入力できます。

Cisco EPNM で **copy** コマンドを実行すると、コンフィギュレーション（実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーション）がコピーされます。

Cisco EPNM のアクティブな設定は、自動的に Cisco EPNM RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーションコマンドは、実行コンフィギュレーションに含まれます。Cisco EPNM サーバーを再起動すると、実行コンフィギュレーションが失われます。変更した内容を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワークサーバーなどの安全な場所にコピーするか、Cisco EPNM サーバーのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。

スタートアップ コンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、Cisco EPNM サーバーを起動すると、スタートアップ コンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップ コンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、**write memory** コマンドを使用して、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存する必要があります。**write memory** コマンドは、現在の実行コンフィギュレーションを永続化します。



- (注) 実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 Cisco EPNM サーバーを再起動したときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。また、コンフィギュレーションが失われたときに回復するために、次のコマンドを使用して、実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションのコピーを保存できます。

copy startup-config location

copy running-config ロケーション



- (注) **copy** コマンドは、ローカルディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。



- ヒント エイリアスを使用すると、必要な入力文字数が減ります。たとえば、**copy run start** (**copy running-config startup-config** コマンドの省略形) と入力できます。

コピープロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

発生する可能性のあるエラーは、標準の FTP エラー メッセージです。

表 1: プロトコル プレフィックスのキーワード

キーワード	接続先
FTP	FTP ネットワーク サーバの URL。このエイリアスの構文： ftp://location/directory

キーワード	接続先
<p>sftp</p>	<p>SFTP ネットワーク サーバの URL。このエイリアスのシンタックスは <code>sftp://location/directory</code> です。</p> <p>SFTP リポジトリでは、IP アドレスまたは FQDN と SFTP ストア上の物理パスとの間に // が必要な場合があります。単一のスラッシュでは SFTP リポジトリにアクセスできないことがわかった場合は、スラッシュを追加して、操作をやり直してください。例：url <code>sftp://server//path</code></p> <p>(注) リモート SFTP サーバでは「パスワード認証」を有効にする必要があります (キーボードインタラクティブモードは <code>sftp</code> 転送で動作しません)。パスワード認証を有効にするには、リモートエンドで使用される SSHD サーバのマニュアルを参照してください。</p> <p>リモートサーバで使用している SFTP ソフトウェアによっては、「キーボードインタラクティブモード」ではなく「パスワード認証」を有効にすることが必要な場合があります。「パスワード認証」の有効化が必要です。有効にしないと、リモート SFTP サーバにコピーできません。例：OpenSSH 6.6x では、「キーボードインタラクティブモード」がデフォルトです。「パスワード認証」を有効にするには、OpenSSH <code>sshd_config</code> ファイルを編集して <code>PasswordAuthentication</code> パラメータを「yes」に設定 (<code>PasswordAuthentication yes</code>) します。</p>
<p>tftp</p>	<p>TFTP ネットワーク サーバの URL。このエイリアスの構文：</p> <p><code>tftp://location/directory</code></p>

例 1

```
ncs/admin# copy run start
Generating configuration...
ncs/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# copy running-config startup-config
Generating configuration...
ncs/admin#
```

例 3

```
ncs/admin# copy start run
ncs/admin#
```

例 4

```
ncs/admin# copy startup-config running-config
ncs/admin#
```

例 5

```
ncs/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
ncs/admin#
```

例 6

このコマンドは、TFTP から PNP に証明書をコピーするために使用されます。

```
copy tftp://<EPNM Server IP Address>/server.key disk:/
copy tftp://<EPNM Server IP Address>/server.crt disk:/
copy tftp://<EPNM Server IP Address>/ncs_server_certificate.crt disk:/
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete	Cisco EPNM サーバーからファイルを削除します。
dir	Cisco EPNM サーバー上のファイルを一覧表示します。

debug

コマンドの状況に関するエラーやイベントを表示するには、EXEC モードで **debug** コマンドを使用します。

```
debug{all | application | backup-restore | cdp | config | icmp | copy | locks | logging | snmp | system |
transfer | user | utils}
```

構文の説明

all 全てのデバッグをイネーブルにします。

application

アプリケーション ファイル。

- *all* : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *install* : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *operation* : アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *uninstall* : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

backup-restore

ファイルをバックアップおよび復元します。

- *all* : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
 - *backup* : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
 - *backup-logs* : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
 - *history* : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
 - *restore* : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
-

cdp

Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションファイル。

- *all* : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
 - *config* : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
 - *infra* : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
-

config

設定ファイル。

- *all* : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *backup* : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *clock* : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *infra* : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *kron* : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *network* : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *repository* : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- *service* : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

copy

コピー コマンド。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

icmp	<p>インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0~7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
locks	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0~7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• <i>file</i> : ファイルロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0~7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
logging	<p>ロギング コンフィギュレーションファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0~7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
snmp	<p>SNMP コンフィギュレーションファイル。</p> <p><i>all</i> : すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0~7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>

system	<p>システム ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
転送	<p>ファイル転送。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>
user	<p>ユーザ管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • <i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
utils	<p>ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
コマンド デフォルト	<p>デフォルトの動作や値はありません。</p>
コマンド モード	<p>EXEC</p>

使用上のガイドライン セットアップエラーやコンフィギュレーションエラーなど、Cisco EPNM サーバー内のさまざまなエラーを識別するには、**debug** コマンドを使用します。

```
ncs/admin# debug all
ncs/admin# mkdir disk:/1
ncs/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success

ncs/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
ncs/admin#

ncs/admin# undebug all
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
undebug	さまざまなコマンドの状況で、 debug コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）を無効にします。

delete

サーバーからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。このコマンドの **no** 形式はありません。

delete filename [disk:/path]

構文の説明

<i>filename</i>	[ファイル名 (Filename)]:
<i>disk:/path</i>	場所。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン コンフィギュレーションファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、最新の有効なシステムイメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。

```
ncs/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	Cisco EPNM サーバー上のすべてのファイルを一覧表示します。

dir

Cisco EPNM サーバー上のファイルを一覧表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dir [*word*][*recursive*]

構文の説明

<i>word</i>	ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字。ディレクトリ名の前には disk:/ を指定する必要があります。
recursive	ローカル ディレクトリまたはファイル名を再帰的に一覧表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

```
epnm-system-208/admin# dir
Directory of disk:/

20 Dec 02 2020 09:07:53 crash
4096 Dec 03 2020 10:48:22 defaultRepo/
4096 Dec 04 2020 12:27:33 ftp/
4096 Dec 03 2020 12:18:28 logs/
16384 Dec 01 2020 15:25:15 lost+found/
4096 Dec 02 2020 22:49:13 sftp/
4096 Dec 02 2020 09:06:12 ssh/
4096 Dec 02 2020 09:06:12 telnet/
4096 Dec 02 2020 09:46:31 tftp/

Usage for disk: filesystem
1031405568 bytes total used
42919706624 bytes free
46310408192 bytes available
epnm-system-208/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete	Cisco EPNM サーバーからファイルを削除します。

exit

Cisco EPNM サーバーからログアウトしてアクティブなターミナルセッションを終了する場合、またはコンフィギュレーション モードから 1 つ上のモードレベルに移行する場合は、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンドモード	EXEC
使用上のガイドライン	EXEC モードで exit コマンドを使用して、アクティブなセッションを終了（Cisco EPNM サーバーからログアウト）するか、コンフィギュレーションモードから上のモードに移行します。

```

epnm-system/admin# exit
Connection closing...Socket close.
Connection closed by foreign host.
Disconnected from remote host(10.197.71.160:22) at 10:51:43.

```

関連コマンド	コマンド	説明
	end	コンフィギュレーションモードを終了します。
	exit	コンフィギュレーションモードまたは EXEC モードを終了します。
	Ctrl-z	設定モードを終了します。

forceout

ユーザーを Cisco EPNM サーバーからログアウトさせて、アクティブな端末セッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceout** コマンドを使用します。

forceout ユーザー名

構文の説明	<i>username</i>	ユーザの名前。最大 31 文字の英数字。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	

```

ncs/admin# forceout user1
ncs/admin#

```

関連コマンド	説明
show users (108 ページ)	Cisco EPNM サーバーにログインしているユーザーのリストを表示します。

halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halt** コマンドを使用します。

halt

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **halt** コマンドを実行する前に、Cisco EPNM が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco EPNM がこれらのいずれかの操作を行っている間に **halt** コマンドを入力すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、操作を停止するには **yes** と入力し、停止をキャンセルするには **no** と入力します。

halt コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示された警告メッセージに応じて **Yes** と入力すると、Cisco EPNM によって、次のオプションに対する応答が要求されます。

```
Do you want to save the current configuration ?
```

YES と入力して、既存の Cisco ACS コンフィギュレーションを保存します。Cisco EPNM には次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

```
eptm-system/admin# halt
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Continue with shutdown? [y/n] y
Broadcast message from root (pts/0) (Wed May 5 18:37:02 2010):
The system is going down for system halt NOW!
Server is shutting down...
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	システムをリブートします。

lms

LMS サーバーから EPNM サーバーにデータを移行するには、EXEC モードで **lms** コマンドを使用します。

lms migrate repository *repository-name*

構文の説明	<i>repository-name</i>	EPNM リポジトリの名前。
コマンド デフォルト	デフォルトの値または動作はありません。	
コマンド モード	EXEC	
	<pre>epnm-cluster-160/admin# lms migrate repository test Repository name : test Initiating LMS data restore . Please wait... INFO: no staging url defined, using local space. LMS Migration Normal Flow Started : == true INFO: Backup Status : SUCCESS Enter the password to unlock the zip file : ***** INFO: Password validation successful. Enter the Cisco EPNM Login Username : root Enter the Cisco EPNM Login Password : ***** (here roZes123) HTTPS port used is 443 Connecting to The Server... Login success. Updating the credentials... The following data types are available in the given exported data. Choose an option using comma separated values to migrate. 1 network 2 settings 3 All of the above Enter an option or comma-separated options :3 3 Checking for all option ... Updating the downloading files list ... Started downloading the files to import from repository ...</pre>	

mkdir

Cisco EPNM サーバーに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで **mkdir** コマンドを使用します。

mkdir *directory-name* [*disk:/path*]

構文の説明	<i>directory-name</i>	作成するディレクトリの名前。最大 80 文字の英数字。
	<i>disk:/path</i>	ディレクトリ名には <i>disk:/path</i> の形式を使用します。

ncs certvalidation certificate-check

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン ディレクトリ名には *disk:/path* の形式を使用します。そうしなければ、*disk:/path* の指定が必要であることを示すエラーが表示されます。

```
ncs/admin# mkdir disk:/test
ncs/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49  activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59  logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27  lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53  target/
   4096 May 07 2010 12:26:04  test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	Cisco EPNM サーバー上のファイルを一覧表示します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。

ncs certvalidation certificate-check

証明書の検証を有効または無効にするには、EXEC モードで **ncs certvalidation certificate-check** コマンドを使用します。

ncs certvalidation certificate-check { *disable* | *enable* | *trust-on-first-use* } **trustzone**
trustzone_name

構文の説明

<i>disable</i>	証明書の検証の無効化
<i>enable</i>	証明書の検証の有効化
<i>trust-on-first-use</i>	初回使用時にホスト証明書を信頼してピン留め
<i>trustzone_name</i>	トラストゾーンの名前

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

```
epnm-system/admin# ncs certvalidation certificate-check trust-on-first-use trustzone
system
```

```
ncs certvalidation certificate-check enable trustzone system
```

ncs certvalidation custom-ocsp-responder

カスタム OCSP レスポンダを設定するには、EXEC モードで **ncs certvalidation custom-ocsp-responder** コマンドを使用します。

```
ncs certvalidation custom-ocsp-responder { clear url | disable | enable | set url }
```

構文の説明

clear	OCSP レスポンダの URL をクリアします。
disable	カスタム OCSP レスポンダを無効にします。
enable	カスタム OCSP レスポンダを有効にします。
set	OCSP レスポンダの URL を設定します。



(注) 上記の **ncs certvalidation** エントリのいずれかを使用した後、EPNM を再起動する必要があります。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

```
epnm-system/admin# ncs certvalidation custom-ocsp-responder enable
epnm-system/admin# ncs certvalidation custom-ocsp-responder set url1 http://10.104.119.201
epnm-system/admin# ncs certvalidation custom-ocsp-responder clear url1
epnm-system/admin# ncs certvalidation custom-ocsp-responder disable
```

ncs certvalidation revocation-check

OCSP または CRL を使用した失効チェックを有効または無効にするには、EXEC モードで **ncs certvalidation revocation-check** コマンドを使用します。

```
ncs certvalidation revocation-check { disable | enable } trustzone { devicemgmt | pubnet |
system | user }
```

構文の説明

<i>disable</i>	証明書の失効を無効にします。
----------------	----------------

<i>enable</i>	証明書の失効を有効にします。
---------------	----------------

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	EXEC
----------	------

```
eptm-system/admin# ncs certvalidation revocation-check enable trustzone system
eptm-system/admin#
```

ncs certvalidation tofu-certs

初回使用時に信頼された証明書を表示および削除するには、EXEC モードで **ncs certvalidation tofu-certs** コマンドを使用します。

ncs certvalidation tofu-certs {*listcerts* | *deletecert host host_name* }

構文の説明	<i>deletecert</i>	ホストの初回使用時に信頼された証明書を削除します
-------	-------------------	--------------------------

	<i>listcerts</i>	初回使用時に信頼された証明書を一覧表示します
--	------------------	------------------------

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	EXEC
----------	------

例 1 : listcert

```
eptm-system/admin# ncs certvalidation tofu-certs listcerts
Host certificate are automatically added to this list on first connection, if
trust-on-first-use is configured - ncs certvalidation certificate-check ...
host=10.197.71.121_8082; subject= /C=US/ST=CA/L=SJ/O=Cisco
Systems/OU=EPNM/CN=eptm-system-121
eptm-system/admin#
```

例 2 : deletecerts

```
eptm-system/admin# ncs certvalidation tofu-certs deletecert host 10.197.71.121_8082
Deleted entry for 10.197.71.121_8082
eptm-system/admin#
```

ncs certvalidation trusted-ca-store

信頼できる CA 証明書ストアを設定するには、EXEC モードで **ncs certvalidation trusted-ca-store** コマンドを使用します。

ncs certvalidation trusted-ca-store {*auto-ca-update* { *enable* | *disable truststore truststore_name* } | *deletecert alias* { *alias_name truststore truststore_name* { *devicemgmt* | *pubnet* | *system* }

```
| user } } | importcert alias alias_name repository repository_name truststore truststore_name
| listcerts truststore truststore_name }
```

構文の説明

<i>auto-ca-update</i>	ソフトウェア更新時の信頼できる CA 証明書の自動更新リスト
<i>deletecert</i>	証明書の検証の有効化
<i>importcert</i>	信頼ストアへの証明書のインポート
<i>listcerts</i>	信頼できるすべての CA 証明書のリスト
<i>truststore_name</i>	トラストストア名
devicemgmt	管理対象デバイスからの証明書の検証に使用されるトラストストア
pubnet	パブリックインターネットからの証明書の検証に使用されるトラストストア
system	他のピアシステムからの証明書の検証に使用されるトラストストア
user	ユーザーログインの証明書の検証に使用されるトラストストア

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定

例 1 : auto-ca-update

```
epnm-system/admin# ncs certvalidation trusted-ca-store auto-ca-update enable truststore
system
epnm-system/admin# ncs certvalidation trusted-ca-store auto-ca-update disable truststore
system
epnm-system/admin#
```

例 2 : deletecert

```
epnm-system/admin# ncs certvalidation trusted-ca-store deletecert alias quovadisroot
truststore system
Deleted CA certificate from trust store. Changes will take affect on the next server
restart
epnm-system/admin#
```

例 3 : importcert

```
epnm-system/admin# ncs certvalidation trusted-ca-store importcert alias ALIAS repository
defaultRepo epnm.cer truststore system
Imported CA certificate to trust store. Changes will take affect on the next server
restart
epnm-system/admin#
```

例 3 : listcert

```

epnm-system/admin# ncs certvalidation trusted-ca-store listcacerts truststore pubnet
ciscoeccrootca, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): 52:EC:7D:BB:5C:65:11:DD:C1:C5:46:DB:BC:29:49:B5:AB:E9:D0:EE
ciscorootcam2, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): 93:3D:63:3A:4E:84:0D:A4:C2:8E:89:5D:90:0F:D3:11:88:86:F7:A3
ciscorootca2048, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): DE:99:0C:ED:99:E0:43:1F:60:ED:C3:93:7E:7C:D5:BF:0E:D9:E5:FA
ciscorootcam1, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): 45:AD:6B:B4:99:01:1B:B4:E8:4E:84:31:6A:81:C2:7D:89:EE:5C:E7
quovadisrootca2, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): CA:3A:FB:CF:12:40:36:4B:44:B2:16:20:88:80:48:39:19:93:7C:F7
ciscorootca2099, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): AC:1E:DE:2E:1C:97:0F:ED:3E:E8:5F:8C:3A:CF:E2:BA:C0:4A:13:76
ciscolicensingrootca, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): 5C:A9:5F:B6:E2:98:0E:C1:5A:FB:68:1B:BB:7E:62:B5:AD:3F:A8:B8
verisignclass3publicprimarycertificationauthorityg5, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): 4E:B6:D5:78:49:9B:1C:CF:5F:58:1E:AD:56:BE:3D:9B:67:44:A5:E5
ciscorxcr2, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): 2C:8A:FF:CE:96:64:30:BA:04:C0:4F:81:DD:4B:49:C7:1B:5B:81:A0
digicertglobalrootca, Nov 28, 2018, trustedCertEntry,
Certificate fingerprint (SHA1): A8:98:5D:3A:65:E5:E5:C4:B2:D7:D6:6D:40:C6:DD:2F:B1:9C:54:36
epnm-system/admin#

```

ncs cleanup

次のデータをクリーンアップして、ディスク容量を再利用するには、EXECモードで **ncs cleanup** コマンドを使用します。

- /opt/backup の下のファイル
- /opt/CSCOLumos/logs の下の *.m-n.logs、*.n.logs、*.log.n ログファイル
- /localdisk の下の通常のファイル
- /opt/CSCOLumos/crash の下の .hprof ファイル
- /opt/tmp/ の下の Matlab*.log
- /opt/oracle/base/diag/rdbms/*/*/trace の下の .trm ファイルと .trc ファイル
- /opt/oracle/base/fast_recovery_area/WCS の下の古い期限切れのアーカイブ ログとバックアップセット

ncs cleanup

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco EPNM に十分なディスク容量がない場合に、ディスク容量の解放と再利用を促すアラームが発行されます。 **ncs cleanup** コマンドを入力すると、次の確認メッセージが表示されます。

```
Do you want to delete all the files in the local disk partition? (Y/N)
```

```
epnm-system-117/admin# ncs cleanup
Starting Cleanup: Wed Feb 28 01:50:44 IST 2019
=====
{Wed Aug 12 01:50:47 IST 2019} Removing all files in backup staging directory
{Wed Aug 12 01:50:47 IST 2019} Removing all Matlab core related files
{Wed Aug 12 01:50:47 IST 2019} Removing all older log files
{Wed Aug 12 01:50:47 IST 2019} Cleaning older archive logs
{Wed Aug 12 01:51:03 IST 2019} Cleaning database backup and all archive logs
{Wed Aug 12 01:51:03 IST 2019} Cleaning older database trace files
{Wed Aug 12 01:51:03 IST 2019} Removing all user local disk files
{Wed Aug 12 01:51:03 IST 2019} Cleaning database
{Wed Aug 12 01:51:05 IST 2019} Stopping server
{Wed Aug 12 01:52:05 IST 2019} Not all server processes stop. Attempting to stop \
remaining
{Wed Aug 12 01:52:05 IST 2019} Stopping database
{Wed Aug 12 01:52:07 IST 2019} Starting database
{Wed Aug 12 01:52:20 IST 2019} Starting database clean
{Wed Aug 12 01:58:50 IST 2019} Completed database clean
{Wed Aug 12 01:58:50 IST 2019} Stopping database
{Wed Aug 12 01:59:14 IST 2019} Starting server
=====
Completed Cleanup
Start Time: Mon Aug 28 01:50:44 IST 2019
Completed Time: Mon Aug 28 02:07:07 IST 2019
epnm-system-117/admin#
```

ncs ha authkey

ハイアベイラビリティ (HA) の認証キーを入力するには、EXEC モードで **ncs ha authkey** コマンドを使用します。

ncs ha authkey *authorization key*

構文の説明	<i>authorization key</i> ハイアベイラビリティの認証キー。最大 80 文字の英数字。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	EXEC
使用上のガイドライン	ncs ha authkey コマンドでは、ヘルス モニタの許可を変更します。

次の例は、ハイアベイラビリティの認証キーを設定する方法を示します。

```
epnm-system/admin# ncs ha authkey cisco123
Going to update primary authentication key
Successfully updated primary authentication key
Successfully intimated Primary updated authentication key to Secondary Server
epnm-system/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ncs ha remove	Cisco EPNM からハイアベイラビリティの設定を削除します。
	ncs ha status	ハイアベイラビリティの現在のステータスが表示されます。

ncs ha configure

ハイアベイラビリティ (HA) 動作を制御するには、EXEC モードで **ncs ha configure** コマンドを使用します。

ncs ha configure

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

HA 動作を制御するために使用します。

ncs ha configure コマンドを入力すると、次のサブコマンドが表示されます。

```
epnm-dev-vm-54/admin# ncs ha configure ?
  dgtimeout          Update the DataGuard Time out for high availability
  hbinterval         Update the HM interval for high availability
  hbretry            Update the HM retry for high availability
  sqlexpiretime     Update the DB SqlExpireTime for high availability
  sqlinboundtimeout Update the DB SqlInBoundTimeout for high availability
  tcpkeepaliveintvl Update the Tcp Keep Alive Intvl for high availability
  tcpkeepaliveprobes Update the Tcp Keep Alive Probes for high availability
  tcpkeepalivetime  Update the Tcp Keep Alive Time for high availability
  updatecheckreadiness Update CheckReadiness
```

関連コマンド

コマンド	説明
ncs ha authkey	Cisco EPNM でハイアベイラビリティの認証キーを入力できます。このコマンドでは、ヘルス モニタの許可も変更します。
ncs ha remove	ハイアベイラビリティ構成を削除します。

ncs ha monitor interface add

ハイアベイラビリティのモニタリングにインターフェイスを追加するには、EXEC モードで **ncs ha monitor interface add** コマンドを使用します。


```
ncs ha monitor interface add [ GigabitEthernet | Team ] [ interface number ]
```

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

ncs ha monitor interface del

ハイアベイラビリティのモニタリングからインターフェイスを削除するには、EXEC モードで **ncs ha monitor interface del** コマンドを使用します。

```
ncs ha monitor interface del [ GigabitEthernet | Team ] [ interface number ] }
```

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

ncs ha northbound interface

ノースバウンドインターフェイスを設定するには、EXEC モードで **ncs ha northbound interface** コマンドを使用します。

```
ncs ha northbound interface [ GigabitEthernet | Team ] [ interface number ]
```

コマンド デフォルト デフォルト モードは GigabitEthernet 0 です。

コマンド モード EXEC

ncs ha remove

Cisco EPNM からハイアベイラビリティの設定を削除するには、EXEC モードで **ncs ha remove** コマンドを使用します。

```
ncs ha remove
```

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **ncs ha remove** コマンドを実行すると、Cisco EPNM からハイアベイラビリティの設定が削除されます。このコマンドを入力すると、次の確認メッセージが表示されます。

```
High availability configuration will be removed.  
Do you wish to continue? (Y/N)
```

例

```
epnm-system/admin# ncs ha remove
High availability configuration will be removed
Do you wish to continue? (y/N) y

Removing primary configuration will remove all database information
Primary is attempting to remove high availability configuration from both primary \
and secondary
Successfully removed high availability configuration
epnm-system/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ncs ha authkey	Cisco EPNM でハイアベイラビリティの認証キーを入力できます。このコマンドでは、ヘルス モニタの許可も変更します。
ncs ha status	ハイ アベイラビリティの現在のステータスが表示されます。

ncs ha status

ハイアベイラビリティ (HA) の現在のステータスを表示するには、EXEC モードで **ncs ha status** コマンドを使用します。

ncs ha status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

HA の現在のステータスを表示します。

ncs ha status コマンドを入力すると、次の応答が表示されます。

例 1 : HA が設定されていない場合

```
epnm-system/admin# ncs ha status
[Role] Primary [State] HA not Configured
epnm-systems/admin#
```

例 2 : HA が設定されている場合

プライマリ サーバ :

```
epnm-system/admin# ncs ha status
[Role] Primary [Secondary Server] 10.197.71.162(10.197.71.162) [State] Primary
Active [Failover Type] Automatic
epnm-system/admin#
```

セカンダリ サーバ :

```
epnm-system/admin# ncs ha status
[Role] Secondary [Primary Server] epnm-system-161(10.197.71.161) [State] Secondary
Syncing [Failover Type] Automatic
epnm-system/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ncs ha authkey	Cisco EPNM でハイアベイラビリティの認証キーを入力できます。このコマンドでは、ヘルス モニタの許可も変更します。
ncs ha remove	ハイアベイラビリティ構成を削除します。

ncs key genkey

新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成するには、**ncs key genkey** コマンドを使用します。このコマンドは次のように使用することができます。

ncs key genkey -newdn -csr csrfilename repository repositoryname

構文の説明	genkey
	<p>新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。このコマンドと一緒に次のオプションを使用できます。</p> <p>-csr : 証明書署名要求 (CSR) ファイルを生成します。</p> <p>-newdn : ドメイン情報を使用して新しい RSA キーと自己署名証明書を生成します。</p> <p><cr> : 改行。</p>

-newdn	ドメイン情報を使用して新しい RSA キーと自己署名証明書を生成します。このコマンドと一緒に次のオプションを使用できます。 -csr : 証明書署名要求 (CSR) ファイルを生成します。 <cr> : 改行。
-csr	新しい CSR 証明書ファイルを生成します。このコマンドと一緒に次のオプションを使用できます。 <WORD> : 証明書ファイル名 (80 文字以下) を入力します。
<i>csrfilename</i>	CSR ファイル名。
リポジトリ	リポジトリ コマンド。このオプションは、 -csr オプションを指定したときに使用できます。
<i>repositoryname</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

Cisco EPNM サーバーの新しい RSA キーおよび証明書ファイルを生成する例を以下に示します。

```
epnm-cluster-88/admin# ncs key genkey -newdn -csr test.csr repository defaultRepo

Changes will take affect on the next server restart
  Enter the fully qualified domain name of the server !!!!!: epnm-cluster-88.cisco.com
  Enter the name of your organization unit !!!!!!!!!!!!!!!!: cisco
  Enter the name of your organization !!!!!!!!!!!!!!!!: hcl
  Enter the name of your city or locality !!!!!!!!!!!!!!!!: chennai
  Enter the name of your state or province !!!!!!!!!!!!!!!!: tn
  Enter the two letter code for your country !!!!!!!!!!!!!!!!: US
  Specify subject alternate names.
  If none specified, CN will be used.
  Use comma seperated list - DNS:<name>,IP:<address> !!!!!: \
DNS:epnm-cluster-88.cisco.com,IP:10.126.168.88

  Specify the public key algorithm [rsa/ec] !!!!!!!!!!!!!!!!: rsa
  Specify the RSA key size [2048/4096/8192] !!!!!!!!!!!!!!!!: 4096
  Specify the signature algorithm [sha256/sha512] !!!!!!!!!!!!: sha256

Key and CSR/Certificate will be generated with following details
  Subject : \
/C=US/ST=tn/L=chennai/O=hcl/OU=cisco/CN=epnm-cluster-88.cisco.com
  Subject Alternate Name : DNS:epnm-cluster-88.cisco.com,IP:10.126.168.88
  Public Key Alg : rsa, 4096
  Signature Alg : sha256
```

```
Continue [yes] : yes
Generating...
Completed generating new key...Changes will take affect on the next server restart
Note: You can provide comma separated list of FQDN and IP of EPNM servers where you want
to import the same certificate received from CA.
To import same CA in other server, you need to import the key from the server where you
generate CSR and them import the CA certiifcates.
```



- (注) CSR ファイルはリポジトリが指している場所に生成されます。この CSR ファイルを使用して、任意の CA エージェントから CA 証明書または署名付き証明書を取得します。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ncs key importsignedcert</code>	Cisco EPNM に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<code>ncs key importkey</code>	Cisco EPNM に RSA キーおよび証明書を適用します。



- (注) このコマンドの入力後に、**ncs stop** および **ncs start** コマンドを入力して、Cisco EPNM サーバーを再起動します。

ncs key importkey

Cisco EPNM に RSA キーおよび署名付き証明書を適用するには、EXEC モードで **ncs key importkey** コマンドを使用します。

キーをエクスポートする場合：

```
ncs key exportkey key-filename cert-filename repository repositoryname
```

キーをインポートする場合：

```
ncs key importkey key-filename cert-filename repository repositoryname
```

構文の説明

<i>key-filename</i>	RSA 秘密キーのファイル名。
<i>cert-filename</i>	証明書のファイル名。
リポジトリ	リポジトリ コマンド。
<i>repositoryname</i>	キーファイルと証明書ファイルがホストされている Cisco EPNM で設定されたりポジトリ名。

ncs key importsignedcert

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

次に、サーバに新しい RSA キーおよび証明書ファイルを適用する例を示します。

```
ncs key exportkey private.key server.cer repository defaultRepo
```

```
ncs key importkey keyfile certfile repository ncs-sftp-repo
```



(注) このコマンドの適用後に、**ncs stop** および **ncs start** コマンドを入力して、サーバーを再起動します。

関連コマンド

コマンド	説明
ncs key genkey	新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
ncs key importsignedcert	Cisco EPNM に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。

ncs key importsignedcert

RSA キーおよび署名付き証明書を適用するには、EXEC モードで **ncs key importsignedcert** コマンドを使用します。

```
ncs key importsignedcert signed-cert-filename repository repositoryname
```

構文の説明

<i>signed-cert-filename</i>	署名付き証明書のファイル名。
リポジトリ	リポジトリ コマンド。
<i>repositoryname</i>	キーファイルと証明書ファイルがホストされている Cisco EPNM で設定されたリポジトリ名。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

Cisco EPNM サーバーに署名付き証明書ファイルを適用する例を以下に示します。

```
> ncs key importsignedcert signed-certfile repository ncs-sftp-repo
```



- (注) このコマンドを適用した後、**ncs stop** コマンドと **ncs start** コマンドを入力して、Cisco EPNM サーバーを再起動し、変更を適用します。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ncs key genkey</code>	新しいRSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
<code>ncs key importkey</code>	Cisco EPNM に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。

ncs password ftpuser

FTP ユーザー名とパスワードを変更するには、EXEC モードで **ncs password ftpuser** コマンドを使用します。



- (注) 上記コマンドの `ftpuser` の値は常に `ftp-user` にする必要があります。

`ftp-user` を有効にすると、スタンドアロン サーバーまたはハイ アベイラビリティプライマリサーバー（設定されている場合）の `/localdisk/ftp` フォルダとの間でのみファイルの FTP 転送ができるようになります。`ftp-user` では、ディレクトリ変更 (`cd`) およびディレクトリ一覧表示 (`ls`) 機能は使用できません。

ncs password ftpuser *ftp-user* **password** *password*

構文の説明

ftp-user FTP ユーザー名

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

次に、FTP ユーザー名とパスワードを変更する例を示します。

```
epnm-system-65/admin# ncs password ftpuser ftp-user password Password123
Updating FTP password
Saving FTP account password in credential store
Synching FTP account passwd to database store - location-ftp-user
Synching FTP account password to system store
Completed FTP password update
epnm-system-65/admin#
```

ncs password root password

ルートパスワードを変更するには、EXEC モードで **ncs password root password** コマンドを使用します。

ncs password root password *userpassword*

構文の説明

userpassword

ルート ユーザのパスワード。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

次の例は、ルートパスワードを変更する方法を示しています。

```
epnm-systems/admin# ncs password root password Userpassword
Password updated for web root user
epnm-systems/admin#
```

ncs run client-auth

Cisco EPNM アプリケーションでクライアント証明書の認証を有効にするには、**ncs run client-auth** コマンドを使用します。

ncs run client-auth enable

ncs run client-auth disable

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

```
epnm-system-117/admin# ncs run client-auth enable
```

WARNING :

```
This feature requires the CA certificate to be installed on the system.
Please use the command 'ncs key importcacert ...' to
import the certificate of the CA used to sign the client certificates.
Ignore this warning if the CA certificate is already installed.
```

```
Use the 'disable' option of this command, to disable client authentication,
if not required.
```

```
client_auth status : enabled
epnm-system-117/admin#
```

```
epnm-system-117/admin# ncs run client-auth disable
client_auth status : disabled
epnm-system-117/admin#
```


ncs run csrf

クロスサイト要求偽造チェックをディセーブルにすることができます（非推奨）。CLIは、CSRF 保護用にプログラムされていない API クライアントとの下位互換性を維持するためだけに提供されています。CSRF 保護では、次のコマンドを使用してこのオプションをイネーブルにする必要があります。

ncs run csrf enable

ディセーブルにするには、次のコマンドを使用します。

ncs run csrf disable

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
epnm-cluster-93/admin# ncs run csrf enable
```

```
epnm-cluster-93/admin# ncs run csrf disable
```

ncs run custom-subject-oid-type-regex

カスタム OID タイプの正規表現を設定するには、EXEC モードで **ncs run custom-subject-oid-type-regex** コマンドを使用します。

ncs run custom-subject-oid-type-regex { *regex* }

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

ncs run custom-subject-oid-type

カスタム OID タイプを設定するには、EXEC モードで **ncs run custom-subject-oid-type** コマンドを使用します。

ncs run custom-subject-oid-type { *disable* | *cn* | *sn* | *serialnumber* | *c* | *l* | *st* | *s* | *street* | *o* | *ou* | *t* | *title* | *g* | *gn* | *e* | *emailaddress* | *email* | *uid* | *dc* }

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

ncs run diag

このコマンドを使用して、システムをトラブルシューティングするために `ncs diag` を展開または展開解除できます。これにより、`ncsDiag` ページが利用可能になり、スレッドダンプ、DBQuery などのさまざまなサービスにアクセスしてデータベースクエリを確認できるため、問題のデバッグに役立ちます。このコマンドを展開した後、https://<epnmn_server_ip>/webacs/ncsDiag.do から `ncsDiag` ページにアクセスできます。

ncs run diag -deploy

ncs run diag -remove

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
epnm/admin# ncs run diag -remove
Undeploying the ncsdiag app
```

```
epnm/admin# ncs run diag -deploy
NCS diag web app is deployed
```



(注) 「`ncs run diag -deploy`」の実行後に `ncsDiag` ページにアクセスしようとして問題が発生した場合、最初に「`ncs run diag -remove`」を実行してから「`ncs run diag -deploy`」を実行するように求められます。

ncs run gen-sec-pwd

安全なパスワードを生成するには、EXEC モードで `ncs run gen-sec-pwd` コマンドを使用します。

ncs run gen-sec-pwd

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
imeir-epnm-func/admin# ncs run gen-sec-pwd
Error: Could not find or load main class
/opt/CSColumos/lib/xmp-third-party/log4j-jul-2.17.0.jar
Caused by: java.lang.ClassNotFoundException:
/opt/CSColumos/lib/xmp-third-party/log4j-jul-2/17/0/jar
ERROR: Error in generating secure paassword.
ERROR: cmd '/opt/CSColumos/bin/run_command.sh gen-sec-pwd' failed
```

ncs run jms

Cisco EPNM では、定義された監査に関連するインベントリや設定パラメータに変更が加えられるたびに、Java メッセージサーバー（JMS）に通知を送信することができます。**ncs run jms** コマンドを使用して、この機能を有効または無効にすることができます。

ncs run jms enable

ncs run jms disable

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
epnm-cluster-93/admin# ncs run jms enable
```

```
epnm-cluster-93/admin# ncs run jms disable
Connectivity to the JMS (message bus) from external servers disabled.
Connectivity is required for external PnP Gateway servers to interact
with the EPNM server.
```

Use the 'enable' option of this command, to enable connectivity again.

ncs run list

NCS に関連付けられているコマンドの一覧を表示するには、EXEC モードで **ncs run list** コマンドを使用します。

ncs run list

コマンド デフォルト デフォルトの動作または引数はありません。

コマンド モード EXEC

```
commands :
  list - prints this list

  test iops - tests the disk write performance
  reset [db|keys] - reset database and keys to default factory settings

  csrf [disable|enable] - enable or disable CSRF protection
  client-auth [disable|enable] - enable or disable client certificate based authentication

  jms [disable|enable] - enable or disable message bus connectivity (port 61617)

  sshclient-nonfips-ciphers [disable|enable] - enable or disable non fips compliant
  ciphers for outgoing ssh client connections to devices
  ssh-server-legacy-algorithms [disable|enable] - enable or disable legacy algorithms
  for SSH service.
  tls-server-versions <tls_versions> - set the TLS versions to be enabled for TLS service
  - TLSv1.2 TLSv1.1 TLSv1
  tls-server-ciphers <tls_cipher_groups> - set the TLS cipher group to be enabled for
  TLS service - tls-ecdh-sha2 tls-ecdh-sha1 tls-dhe-sha2 tls-dhe-sha1 tls-static-sha2
  tls-static-sha1
```

```

livelogs [all|secure|ade|messages] - view live audit logs
loghistory [all|secure|ade|messages] - view audit logs
gen-sec-pwd - Generate secure password
ssh-server-single-legacy-algorithm [list | reset | algorithms] -algorithms with space
seperated
diag [deploy|remove] - deploy or undeploy the ncs diag for trouble shooting the system.

ocsp-responder [disable|enable] - enable or disable OCSP Responder (requires EPNM
restart)
custom-subject-oid-type
[disable|cn|sn|serialnumber|c|l|st|s|street|o|ou|t|title|g|gn|e|emailaddress|email|uid|dc]
- custom OID type
custom-subject-oid-type-regex [regex] - custom OID type regular expression

```

ncs run livelogs

監査ログの一覧を表示するには、**ncs run livelogs** コマンドを実行します。

ncs run livelogs { *all* | *secure* | *ade* | *messages* }

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```

epnm-system-120/admin# ncs run livelogs
***Available filter options to limit logs - all secure ade messages***
*****Press Ctrl+C for stop logging*****
2018-02-28T01:48:39.407787+05:30 epnm-system-120 sshd[10309]: pam_unix(sshd:session): \
session closed for user admin
2018-02-28T01:50:14.109435+05:30 epnm-system-120 sshd[32038]: \
pam_tally2(sshd:account): option unlock_time=60 allowed in auth phase only
2018-02-28T01:50:14.109456+05:30 epnm-system-120 sshd[32038]: \
pam_tally2(sshd:account): unknown option: no_reset
2018-02-28T01:50:14.112152+05:30 epnm-system-120 sshd[32038]: pam_unix(sshd:session): \
session opened for user admin by (uid=0)
2018-02-28T02:00:57.499844+05:30 epnm-system-120 sshd[32038]: pam_unix(sshd:session): \
session closed for user admin
2018-02-28T02:04:28.870085+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-28T02:04:28.976462+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-28T02:21:30.485537+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: \
pam_tally2(sshd:account): option unlock_time=60 allowed in auth phase only
2018-02-28T02:21:30.485556+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: \
pam_tally2(sshd:account): unknown option: no_reset
2018-02-28T02:21:30.488589+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: pam_unix(sshd:session): \
session opened for user admin by (uid=0)

2018-02-28T02:25:04.370446+05:30 epnm-system-120 debugd[3229]: [7471]: \
config:network: sysconfig.c[1116] [admin]: Getting ipaddress for eth1
2018-02-28T02:25:04.377607+05:30 epnm-system-120 debugd[3229]: [7471]: \
config:network: syscfg_cli.c[1098] [admin]: No ipaddress for interface eth1
2018-02-28T02:25:04.384642+05:30 epnm-system-120 ADEOSShell[7471]: Change Audit \
Details:SUCCESS:CARS
CLI:carsGetIfState::root:/opt/system/bin/carssh:NotFromTerminal:5:
2018-02-28T02:25:04.384720+05:30 epnm-system-120 debugd[3229]: [7471]: \
config:network: syscfg_cli.c[1105] [admin]: Interface eth1 is down
2018-02-28T02:25:04.384777+05:30 epnm-system-120 debugd[3229]: [7471]: \
config:network: syscfg_cli.c[1011] [admin]: Getting dhcpv6 enabled for eth1

```

```

2018-02-28T02:25:04.405866+05:30 epnm-system-120 ADEOSShell[7471]: Change Audit \
Details:SUCCESS:CARS \
CLI:carsGetNameserver::root:/opt/system/bin/carssh:NotFromTerminal:6:
2018-02-28T02:25:04.412912+05:30 epnm-system-120 ADEOSShell[7471]: Change Audit \
Details:SUCCESS:CARS \
CLI:carsGetNameserver::root:/opt/system/bin/carssh:NotFromTerminal:7:
2018-02-28T02:25:04.420049+05:30 epnm-system-120 ADEOSShell[7471]: Change Audit \
Details:SUCCESS:CARS \
CLI:carsGetNameserver::root:/opt/system/bin/carssh:NotFromTerminal:8:
2018-02-28T02:25:04.427224+05:30 epnm-system-120 ADEOSShell[7471]: Change Audit \
Details:SUCCESS:CARS \
CLI:carsGetGateway::root:/opt/system/bin/carssh:NotFromTerminal:9:
2018-02-28T02:28:16.411167+05:30 epnm-system-120 ADEOSShell[8312]: Change Audit \
Details:SUCCESS:CARS CLI:run_command::root:/opt/system/bin/carssh:/dev/pts/1:1:

2018-02-28T02:21:25.649026+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: Operating in CiscoSSL \
Common Criteria mode \
2018-02-28T02:21:25.654950+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: FIPS mode initialized \
2018-02-28T02:21:25.806409+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: Outbound-ReKey for \
10.77.144.125:16285 [preauth] \
2018-02-28T02:21:25.889051+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: Inbound-ReKey for \
10.77.144.125:16285 [preauth] \
2018-02-28T02:21:30.487757+05:30 epnm-system-120 sshd[6381]: Accepted password for \
admin from 10.77.144.125 port 16285 ssh2 \
2018-02-28T02:21:30.490420+05:30 epnm-system-120 sshd[6390]: Inbound-ReKey for \
10.77.144.125:16285 \
2018-02-28T02:21:30.490437+05:30 epnm-system-120 sshd[6390]: Outbound-ReKey for \
10.77.144.125:16285 \
2018-02-28T02:21:32.124237+05:30 epnm-system-120 rsyslogd: [origin \
software="rsyslogd" swVersion="5.8.10" x-pid="3216" \
x-info="http://www.rsyslog.com ] rsyslogd was HUPed \
2018-02-28T02:25:04.601075+05:30 epnm-system-120 rsyslogd-2177: imuxsock begins to \
drop messages from pid 3229 due to rate-limiting \
2018-02-28T02:25:30.938945+05:30 epnm-system-120 rsyslogd-2177: imuxsock lost 463 \
messages from pid 3229 due to rate-limiting \
^CERROR: cmd '/opt/CSColumos/bin/run_command.sh livelogs' failed \
epnm-system-120/admin#

```

ncs run loghistory

監査ログの一覧を表示するには、**ncs run loghistory** コマンドを実行します。

```
ncs run loghistory { all | secure | ade | messages }
```

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```

epnm-system-120/admin# ncs run loghistory
***Available filter options to limit logs - all secure ade messages***
::::::::::::::::::
/var/log/secure
::::::::::::::::::
2018-02-25T04:22:03.091312+05:30 epnm-system-120 passwd: pam_unix(passwd:chauthtok): \
password changed for scpuser \
2018-02-25T05:47:52.693460+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0) \
2018-02-25T05:47:52.746896+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle \
2018-02-25T07:48:08.551061+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \

```

```
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T07:48:08.607276+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T09:48:29.616066+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T09:48:29.675890+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T11:48:49.792055+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T11:48:49.845594+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T13:49:13.712070+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T13:49:13.764692+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T15:49:28.165108+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T15:49:28.231362+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T17:49:46.089296+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T17:49:46.143475+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T19:50:06.775083+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T19:50:06.828332+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T21:50:33.338183+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T21:50:33.393056+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-25T23:50:59.225069+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-25T23:50:59.278849+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T01:51:23.433628+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T01:52:00.541797+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T01:52:00.582068+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T01:52:00.635314+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:00.737839+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T03:30:01.308384+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:01.318405+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T03:30:01.373111+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:01.411957+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T03:30:03.176254+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:03.196829+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T03:30:03.252549+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:06.105604+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T03:30:07.126919+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:07.131747+05:30 epnm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
```

```

opened for user oracle by (uid=0)
2018-02-26T03:30:14.916295+05:30 epm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
closed for user oracle
2018-02-26T03:30:14.923602+05:30 epm-system-120 su: pam_unix(su-l:session): session \
opened for user oracle by (uid=0)
epnm-system-120/admin#

```

ncs run oosp-responder

OCSP レスポンダを有効または無効にするには（EPNM の再起動が必要）、EXEC モードで **ncs run oosp-responder** コマンドを使用します。

ncs run oosp-responder { *enable* / *disable* }

構文の説明	enable	OCSP レスポンダを有効にします。
	disable	OCSP レスポンダを無効にします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	



- (注) OCSP レスポンダコマンドを機能させるには、**ncs run client-auth** コマンドを有効化する必要があります。「[ncs run client-auth \(40 ページ\)](#)」を参照してコマンドを有効にしてください。

ncs run reset

ncs run reset コマンドを使用して、Cisco EPNM サーバーからすべての秘密キーを削除したり、破損したデータベースをクリーンアップしたりできます。DB をリセットすると、既存のすべてのデータがクリアされ、空のデータに置き換えられます。

ncs run reset { *db* | *keys* }

構文の説明	db	DB を空のデータでリセットします。
	keys	Cisco EPNM サーバーからすべての秘密キーを削除します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	

```

epnm-system-160/admin# ncs run reset db
***** Warning *****

```

```
This script will delete the existing data in database (network data) and reset
database to default factory settings.
Do you want to proceed [yes/no] [no]? yes
Stopping EPNM...
This may take a few minutes...
EPNM successfully shutdown.
Stopping SAM daemon...
Checking for SAM daemon again ...
SAM Daemon not found...
Stopping DA daemon ...
Checking for DA daemon again ...
DA Daemon not found...
Completed shutdown of all services
Listener wcstns is down.
Listener already stopped.
Database is already stopped. Cannot stop again.
This script is intended to run database configuration utilities
to provision and create the embedded database
Running database network config assistant tool (netca)...
Running oracle ZIP DB creation script...
configuring Oracle memory size
Running standby database creation script...
currentState is ...
sid being set wcs
SQL*Plus: Release 12.1.0.2.0 Production on Wed Nov 14 11:25:18 2018
Copyright (c) 1982, 2014, Oracle. All rights reserved.
Connected to an idle instance.
SQL> ORACLE instance started.
Total System Global Area 2147483648 bytes
Fixed Size                2926472 bytes
Variable Size             1023412344 bytes
Database Buffers         1107296256 bytes
Redo Buffers              13848576 bytes
Database mounted.
Database opened.
SQL>
User altered.
SQL> Database closed.
Database dismounted.
ORACLE instance shut down.
SQL> Disconnected from Oracle Database 12c Enterprise Edition Release 12.1.0.2.0 - \
64bit Production
With the Partitioning, OLAP, Advanced Analytics and Real Application Testing options
SQL*Plus: Release 12.1.0.2.0 Production on Wed Nov 14 11:25:52 2018
Copyright (c) 1982, 2014, Oracle. All rights reserved.
Connected to an idle instance.
SQL> ORACLE instance started.
Total System Global Area 1287651328 bytes
Fixed Size                2934984 bytes
Variable Size             331351864 bytes
Database Buffers         947912704 bytes
Redo Buffers              5451776 bytes
Database mounted.
Database opened.
SQL>
User altered.
SQL> Database closed.
Database dismounted.
ORACLE instance shut down.
SQL> Disconnected from Oracle Database 12c Enterprise Edition Release 12.1.0.2.0 - \
64bit Production
With the Partitioning, OLAP, Advanced Analytics and Real Application Testing options
Listener wcstns is up
Database is already stopped. Cannot stop again.
```



```
INFO: reset db command executed successfully. Please restore the system data from a \
backup file
```

次の例は、Cisco EPNM サーバー内のすべての秘密キーを削除する方法を示しています。

```
epnm-system-61/admin# ncs run reset keys
This will delete all the private keys and may impact webserver, SSH service etc.
Do you want to proceed [yes/no] [no]? yes
```

ncs run ssh-server-single-legacy-algorithm

SSH サーバーのレガシーアルゴリズムを有効または無効にするには、EXEC モードで **ncs run ssh-server-single-legacy-algorithm** コマンドを使用します。

```
ncs run ssh-server-single-legacy-algorithm { list / reset / algorithms }
```

構文の説明

リスト	サポートされるアルゴリズムのリストを表示します。
reset	設定をデフォルトに戻します。
アルゴリズム	アルゴリズムを設定します。



(注) 以前の EPNM バージョンで SSH レガシーアルゴリズムの設定を有効または無効にした場合でも、アップグレードパスを介して EPNM 3.7.x または 3.8.x に移行すると、一部の KEX および暗号アルゴリズムは、3.7.x や 3.8.x へのアップグレードにより変更されます。これで、3.7.x または 3.8.x から 3.9 にアップグレードすると、3.7.x または 3.8.x アップグレードサーバーで利用可能なものと同じ KEX および暗号アルゴリズムのリストが 3.9 でも表示されます。

次の手順はこの回避策を示します。必要なすべての SSH アルゴリズムが記載されています。

- a) 以前のバージョンから 3.7.x または 3.8.x バージョンにアップグレードする場合は、レガシー SSH アルゴリズムを無効または有効にしてください。3.9 にアップグレードする前に、以下のコマンドを実行します。

```
admin# ncs run ssh-server-legacy-algorithms disable
```

```
admin# ncs run ssh-server-legacy-algorithms enable
```

- b) 以前のバージョンから 3.7.x または 3.8.x にアップグレードし、さらに 3.9 バージョンにアップグレードした場合は、以下のコマンドを実行して SSH レガシー暗号を無効または有効にしてください。

```
admin# ncs run ssh-server-legacy-algorithms disable
```

```
admin# ncs run ssh-server-legacy-algorithms enable
```

ncs run sshclient-nonfips-ciphers

デバイスへの発信 SSH クライアント接続で、FIPS 非準拠の暗号を有効または無効にするには、EXEC モードで **ncs run sshclient-nonfips-ciphers** コマンドを使用します。

```
ncs run sshclient-nonfips-ciphers { enable | disable }
```

構文の説明

enable	発信 SSH クライアント接続で、FIPS 非準拠の暗号を有効にします。
disable	発信 SSH クライアント接続で、FIPS 非準拠の暗号を無効にします。

コマンド デフォルト

デフォルトのモードは `enable` です。

EXEC

```
epnm-ha-imeir-prim/admin# ncs run sshclient-nonfips-ciphers disable
```



(注) このコマンドは、連邦情報処理標準（FIPS）モードでのみ使用できます。

ncs run test iops

Cisco EPNM での入出力操作の詳細をテストして表示するには、EXEC モードで **ncs run test iops** コマンドを使用します。

ncs run test iops

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
epnm-242/admin# ncs run test iops
Testing disk write speed ...
8388608+0 records in
8388608+0 records out
8589934592 bytes (8.6 GB) copied, 33.4561 s, 257 MB/s
```

ncs run tls-server-ciphers

TLS 暗号グループを有効にするには、EXEC モードで **ncs run tls-server-ciphers** コマンドを使用します。

ncs run tls-server-ciphers { *tls-ecdhe-sha2* | *tls-ecdhe-sha1* | *tls-dhe-sha2* | *tls-dhe-sha1* | *tls-static-sha2* | *tls-static-sha1* }

構文の説明

<i>tls-ecdhe-sha2</i>	TLS 暗号グループ <i>ecdhe sha2</i> を参照
<i>tls-ecdhe-sha1</i>	TLS 暗号グループ <i>ecdhe sha1</i> を参照
<i>tls-dhe-sha2</i>	TLS 暗号グループ <i>dhe sha2</i> を参照
<i>tls-dhe-sha1</i>	TLS 暗号グループ <i>dhe sha1</i> を参照
<i>tls-static-sha2</i>	TLS サイバーグループ <i>static sha2</i> を参照
<i>tls-static-sha1</i>	TLS 暗号グループ <i>static sha1</i> を参照

コマンド デフォルト デフォルトの暗号グループは **tls-ecdhe-sha2** です

EXEC

```
epnm/admin# ncs run tls-server-ciphers tls-ecdhe-sha1
Enabled TLS cipher groups are - tls-ecdhe-sha1
```

Restart is required for the changes to take effect

ncs run tls-server-versions

TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定するには、EXEC モードで **ncs run tls-server-versions** コマンドを使用します。

ncs run tls-server-version <TLS version>

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

次の例は、ncs run set-tls-versions コマンドの使用方法を示しています。

```
epnm-system-168/admin# ncs run tls-server-versions TLSv1 TLSv1.1 TLSv1.2
Enabled TLS version are - TLSv1,TLSv1.1,TLSv1.2
Restart is required for the changes to take effect
epnm-system-168/admin#
```



警告 このコマンドを実行するには、ソフトウェアをすぐに再起動する必要があります。変更がプライマリとセカンダリの両方のサーバーに反映されるように、フェールオーバーとフェールバックを実行することをお勧めします。

ncs start

EPNM サーバーを起動するには、**ncs start** コマンドを使用します。

ncs start [verbose]

構文の説明 verbose 起動プロセス中に詳細なメッセージが表示されます。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン コンソールにメッセージを表示するには、**ncs start verbose** コマンドを使用します。

次の例では、EPNM サーバーの開始方法を示します。

```
Starting Evolved Programmable Network Manager...
```

```
This may take a while (10 minutes or more) ...
```

```
Evolved Programmable Network Manager started successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
ncs stop	EPNM サーバーを停止します。
ncs status	EPNM サーバーの現在のステータスを表示します。

ncs status

EPNM サーバーのステータスを表示するには、EXEC モードで **ncs status** コマンドを使用します。

ncs status

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

次に、EPNM サーバーのステータスを表示する例を示します。

ncs status

```
Health Monitor Server is running. ( [Role] Primary [State] Primary Active )
Database server is running
Distributed Cache Service is running.
Messaging Service is running.
FTP Service is disabled
TFTP Service is disabled
NMS Server is running.
LCM Monitor is running.
SAM Daemon is running ...
DA Daemon is running ...
```

関連コマンド

コマンド	説明
ncs start	EPNM サーバーを起動します。
ncs stop	EPNM サーバーを停止します。

ncs stop

EPNM サーバーを停止するには、EXEC モードで **ncs stop** コマンドを使用します。詳細なメッセージを表示するには、**ncs stop verbose** コマンドを使用します。

ncs stop [verbose]

構文の説明	verbose	停止プロセス中に詳細なメッセージが表示されます。
-------	----------------	--------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 詳細なメッセージを表示するには、**ncs stop verbose** コマンドを使用します。

次の例では、EPNM サーバーの停止方法を示します。

```
Stopping Evolved Programmable Network Manager...

This may take a few minutes...
Database is not running.
FTP Service is not running.
TFTP Service is not running.
NMS Server is not running!.

Evolved Programmable Network Manager successfully shutdown.

Stopping SAM daemon...
Checking for SAM daemon again ...
SAM Daemon not found...
Stopping DA daemon ...
Checking for DA daemon again ...
DA Daemon not found...
Completed shutdown of all services
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ncs start	EPNM サーバーを起動します。
	ncs status	EPNM サーバーの現在のステータスを表示します。

nslookup

Cisco EPNM サーバーでリモートシステムのホスト名を検索するには、EXEC モードで **nslookup** コマンドを使用します。

nslookup *word*

構文の説明	<i>word</i>	リモートシステムのIPv4アドレスまたはホスト名。最大 63 文字の英数字。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	

例 1

```

ncs/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "209.165.200.225.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 172.16.168.183#53 in 1 ms
Trying "209.165.200.225.in-addr.arpa"
Host 209.165.200.225.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 172.16.168.183#53 in 1 ms

ncs/admin#

```

例 2

```

ncs/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "225.200.165.209.in-addr.arpa"
;; ->HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 65283
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 2, ADDITIONAL: 0

;; QUESTION SECTION:
;225.200.165.209.in-addr.arpa. IN PTR

;; ANSWER SECTION:
225.200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN PTR 209-165-200-225.got.net.

;; AUTHORITY SECTION:
192.168.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns1.got.net.
192.168.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns2.got.net.

Received 119 bytes from 172.16.168.183#53 in 28 ms

ncs/admin#

```

ocsp responder

Online Certificate Status Protocol (OCSP) は、OCSP レスポンダを使用して Web クライアントの証明書ベース認証を可能にします。通常、OCSP レスポンダの URL は証明書の Authority Information Access (AIA) から読み取られます。フェールオーバーメカニズムとして、Cisco EPNM サーバー上で同じ URL を設定できます。カスタム OCSP レスポンダを有効または無効にしたり、OCSP レスポンダの URL を設定または削除するには、EXEC モードで **ocsp responder** コマンドを使用します。

```
ocsp responder { remove / set / show }
```

構文の説明	clear	OCSP レスポンダの URL をクリアします。
-------	--------------	--------------------------

custom	カスタム OCSP レスポンダを有効または無効にします。
set	OCSP レスポンダの URL を設定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作はありません。

コマンド モード EXEC

```
ncs/admin# oosp responder
ncs/admin# oosp responder custom enable

ncs/admin# oosp responder set url1 <WORD>
<WORD> Enter oosp url (Max Size - 1024)

ncs/admin# oosp responder clear url1
```

ping

リモートシステムとの基本的な IPv4 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping** コマンドを使用します。

ping {*ip-address* / *hostname*} [**Df**df][**packetsize**packetsize][**pingcount**pingcount]

構文の説明

<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
df	パケットフラグメンテーションに関する指定。
<i>df</i>	パケットフラグメンテーションを禁止する場合は、値を 1 に指定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は 2 、DF を設定しない場合は 3 に指定します。
packetsize	PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	ping パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
pingcount	PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	ping エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **ping** コマンドはエコー要求パケットをアドレスに送信し、応答を待ちます。**ping** 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

```
ncs/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms

--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	リモート IPv6 アドレスを ping します。

ping6

リモートシステムとの基本的な IPv6 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping6** コマンドを使用します。

ping6 *{ip-address | hostname}* [**GigabitEthernet***packetsize*]*[pingcount*]

構文の説明

<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字。
GigabitEthernet	イーサネットインターフェイスを選択します。
packetsize	PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	ping パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
pingcount	PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	ping エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン IPv6 **ping6** コマンドは、アドレスにエコー要求パケットを送信し、応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

IPv6 **ping6** コマンドは、IPv4 ping fragmentation (IPv4 の df) オプションをサポートしない既存の IPv4 ping コマンドと類似していますが、インターフェイスのオプションの指定が可能です。インターフェイス オプションは、主にインターフェイス固有のリンク ローカルアドレスとピン接続に役立ちます。packetsize および pingcount オプションは IPv4 コマンドと同様に機能します。

例 1

```
ncs/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 (3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2

ncs/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetsize 10 pingcount
2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 (3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2

ncs/admin#
```

関連コマンド

	説明
ping	リモート IP アドレスを ping します。

reload

Cisco EPNM オペレーティングシステムをリロードするには、EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload**構文の説明**

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

このコマンドにデフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

reload コマンドはシステムをリブートします。コンフィギュレーション情報をファイルに入力して、CLIで永続的なスタートアップコンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションを保存し、Web 管理ユーザー インターフェイスセッションに設定を保存した後で、**reload** コマンドを使用します。

reload コマンドを実行する前に、Cisco EPNM が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco EPNM がこれらのいずれかの操作を行っている間に **reload** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、操作を停止するには YES と入力し、停止をキャンセルするには NO と入力します。

reload コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示された警告メッセージに応じて YES と入力すると、Cisco EPNM によって、次のオプションに対する応答が要求されます。

```
Do you want to save the current configuration ?
```

YES と入力して、既存の Cisco ACS コンフィギュレーションを保存します。Cisco EPNM には次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

```
ncs/admin# reload
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Continue with reboot? [y/n] y
```

```
Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):
```

```
The system is going down for reboot NOW!
```

```
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
halt	システムをディセーブルにします。

restore

過去のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。

アプリケーションバックアップの復元 :

Cisco EPNM アプリケーションのみに関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore filename repository repository-name application application-name
```

アプリケーションバックアップの復元

Cisco EPNM アプリケーションと Cisco ADE OS に関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore filename repository repository-name
```

構文の説明		
<i>filename</i>		リポジトリに存在するバックアップファイルのファイル名。最大 120 文字の英数字。 (注) ファイル名の後に、 tar.gpg という拡張子を付ける必要があります (myfile.tar.gpg など)。
リポジトリ		リポジトリのキーワード。
<i>repository-name</i>		バックアップから復元するリポジトリの名前。
application		アプリケーションのキーワード。
<i>application-name</i>		復元するアプリケーションデータの名前。最大 255 文字の英数字。 (注) アプリケーション名に「EPNM」を大文字で入力します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 復元操作は Cisco EPNM および Cisco ADE OS 関連のデータを復元します。Cisco EPNM に限定してアプリケーションデータの前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドに **application** コマンドを追加します。

Cisco EPNM でこれらの 2 つのコマンドを使用すると、Cisco EPNM サーバーが自動的に再起動します。

```
epnm-system-120/admin# restore
epnm-system-173-190908-0334__VER3.7.0.0.159_BKSZ26G_CPU4_MEM3G_RAM11G_SWAP15G_APP_CK218281319.tar.gpg
repository defaultRepo application NCS
```

```
* NOTE *
If the system console is disconnected or got cleared on session timeout
run 'show restore log' to see the output of the last restore session.

Restore will restart the application services. Continue? (yes/no) [yes] ?

DO NOT press ^C while the restoration is in progress
Aborting restore with a ^C may leave the system in a unrecoverable state

Enter the backup password, if your backup is password protected. Otherwise, press Enter
to continue the data restoration.

Password :
Initiating restore. Please wait...
Restore Started at 08/09/19 22:59:05
Stage 1 of 9: Transferring backup file ...
-- completed at 08/09/19 22:59:15
Stage 2 of 9: Decrypting backup file ...
-- completed at 08/09/19 23:02:24
Stage 3 of 9: Unpacking backup file ...
-- completed at 08/09/19 23:02:25
Stopping EPNM server ...
Stage 4 of 9: Decompressing backup ...
-- completed at 08/09/19 23:18:58
Stage 5 of 9: Restoring Support Files ...
-- completed at 08/09/19 23:19:07
Stage 6 of 9: Restoring Database Files ...
-- completed at 08/09/19 23:19:43
Stage 7 of 9: Recovering Database ...
-- completed at 08/09/19 23:28:42
Stage 8 of 9: Updating Database Schema ...
This could take long time based on the existing data size.
Stage 1 of 5: Pre Migration Schema Upgrade ...
-- completed at: 2019-08-09 23:32:46.091, Time
Taken : 0 hr, 4 min, 1 sec
Stage 2 of 5: Schema Upgrade ...
-- completed at: 2019-08-09 23:53:56.668, Time
Taken : 0 hr, 21 min, 9 sec
Stage 3 of 5: Post Migration Schema Upgrade ...
-- completed at: 2019-08-09 23:54:17.489, Time
Taken : 0 hr, 0 min, 19 sec
Stage 4 of 5: Enabling DB Constraints ...
-- completed at: 2019-08-09 23:54:53.179, Time
Taken : 0 hr, 0 min, 34 sec
Stage 5 of 5: Finishing Up ...
-- completed at: 2019-08-09 23:55:12.431, Time
Taken : 0 hr, 0 min, 18 sec
-- completed at 08/09/19 23:55:43
Stage 9 of 9: Re-enabling Database Settings ...
-- completed at 08/10/19 00:24:32
Total Restore duration is: 01h:25m:27s
INFO: Restore completed successfully.

Starting Evolved Programmable Network Manager...

This may take a while (10 minutes or more) ...

Evolved Programmable Network Manager started successfully.

Redirecting to /bin/systemctl restart rsyslog.service
Completed in 1207 seconds
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	バックアップ（Cisco EPNM と Cisco ADE OS）を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	show restore （98 ページ）	復元履歴を表示します。
	repository	バックアップ設定のリポジトリ サブモードを入力します。
	show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップファイルを表示します。
	show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

rmdir *directory-name* [*disk:/path*]

構文の説明		
	<i>directory-name</i>	作成するディレクトリの名前。最大 80 文字の英数字。
	<i>disk:/path</i>	ディレクトリ名には <i>disk:/path</i> の形式を使用します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```

ncs/admin# mkdir disk:/test
ncs/admin# dir

Directory of disk:/

 4096 May 06 2010 13:34:49  activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59  logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27  lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53  target/
 4096 May 07 2010 12:26:04  test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

ncs/admin#

ncs/admin# rmdir disk:/test
ncs/admin# dir

```

```

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49  activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59  logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27  lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53  target/

Usage for disk: filesystem
      181063680 bytes total used
      19084525568 bytes free
      20314165248 bytes available

ncs/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	Cisco EPNM サーバー上のファイルを一覧表示します。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。

rsakey

設定されている RSA キーを表示するか、ユーザー認証のための新しい RSA 公開キーを設定するには、EXEC モードで **rsakey** コマンドを使用します。このコマンドを使用して、設定されている RSA キーを削除することもできます。

```
rsakey { remove | set | show }
```

構文の説明

remove	ユーザ認証のための RSA 公開キーを削除します。
set	ユーザ認証のための RSA 公開キーを設定します。
show	ユーザ認証のための RSA 公開キーを表示します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作はありません。

コマンドモード

EXEC

```

ncs/admin# rsakey
ncs/admin# rsakey show
No RSA key configured for user 'admin'

```

```

ncs/admin# rsakey remove
No RSA key configured for user 'admin'

```

```
ncs/admin# rsakey set <WORD>
<WORD> Filename of RSA public key (Max Size - 256)
```

show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。**show** コマンドは、Cisco EPNM の設定を表示する際に使用できる最も便利なコマンドの 1 つです。

表 表 2 : **show** コマンドの要約 (64 ページ) に記載されているコマンドを使用する場合は、**show application status** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。たとえば、**show application version** です。

すべての Cisco EPNM **show** コマンドの詳細については、「[show コマンド](#)」を参照してください。

show キーワード

構文の説明

表 2: **show** コマンドの要約

コマンド (1)	説明
アプリケーション (キーワードが必要) (2)	インストールされているアプリケーションに関する情報を表示します。たとえば、ステータスやバージョンです。
backup (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
banner	ログインバナーを表示します。
CDP (キーワードが必要)	イネーブルな Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。
clock	システムクロックの曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
cpu	CPU 情報を表示します。
disks	ディスクのファイル システム情報を表示します。
icmp_status	ICMP エコー応答のコンフィギュレーションに関する情報を表示します。
interface	Cisco ADE OS で設定されているすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。

コマンド (1)	説明
インベントリ	ハードウェアインベントリに関する情報を表示します。
ip	IP 情報を表示します。
logging (キーワードが必要)	システムのロギング情報を表示します。
logins (キーワードが必要)	ログイン履歴を表示します。
memory	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
netstat	netstat とファイアウォールに関する情報を表示します。
ntp	Network Time Protocol (NTP) のステータスを表示します。
ports	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
process	Cisco EPNM サーバーのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
repository (キーワードが必要)	特定のリポジトリのファイルの内容を表示します。
restore (キーワードが必要)	Cisco EPNM サーバーの復元履歴を表示します。
running-config	Cisco EPNM サーバーの現在の実行コンフィギュレーションファイルの内容を表示します。
security-status	サービス/ポートの有効化/無効化など、さまざまな情報を表示します。
startup-config	Cisco EPNM サーバーのスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
tech-support	問題の報告時に TAC に提供するシステム情報とコンフィギュレーション情報を表示します。

コマンド (1)	説明
terminal	現在の端末回線の端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を表示します。
timezone	Cisco EPNM サーバーのタイムゾーンを表示します。
timezones	Cisco EPNM サーバーで使用可能なすべてのタイムゾーンを表示します。
udi	Cisco EPNM 固有のデバイス ID (UDI) に関する情報を表示します。
uptime	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
users	現在ログインしているユーザの情報を表示します。
version	インストールされているアプリケーションのバージョンに関する情報を表示します。

12

- ¹ (1) この表にあるコマンドを使用する場合は、たとえば `show application` のように、`show` コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。
- ² (2) 一部の `show` コマンドでは、`show application version` のように、キーワードの後に引数や変数を指定する必要があります。この `show` コマンドは、システムにインストールされているアプリケーションのバージョンを表示します（「[show application](#)」を参照）。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン すべての `show` コマンドは、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

```
epnm-imeir-secon/admin# show version
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 6.7
ADE-OS Build Version: 6.7.9.001
ADE-OS System Architecture: x86_64
```

```
Copyright (c) 2009-2020 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: erez-esxi-12-vm6
```

```
Version information of installed applications
-----
```

```
Cisco EPN Manager
```

```
*****
Version : 6.0.0 [FIPS not Enabled]
Build : 6.0.0.0.000
```

ssh

リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで **ssh** コマンドを使用します。



(注) このコマンドは、Admin でも Operator (ユーザー) でも使用できます (表を参照)。

ssh *[ip-address / hostname] username***port***[number]***version***[1|2]* **delete hostkey***word*

構文の説明

<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字。
<i>username</i>	SSH を介してログインしているユーザーのユーザー名。
port <i>[number]</i>	(オプション) リモート ホストのポート番号を示します。0～65,535 の範囲で指定します。デフォルトは 22 です。
version <i>[1 2]</i>	(オプション) バージョン番号を示します。デフォルトは 2 です。
delete hostkey	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
<i>word</i>	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名。最大 64 文字の英数字。

コマンド デフォルト デイセーブル。

コマンド モード EXEC (Admin または Operator)。

使用上のガイドライン **ssh** コマンドは、システムから別のリモートシステムまたはサーバーに、安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて Telnet のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。SSH クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

例 1

```
ncs/admin# ssh ncs1 admin
admin@ncs1's password:
Last login: Wed Jul 11 05:53:20 2008 from ncs.cisco.com

ncs1/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# ssh delete host ncs
ncs/admin#
```

tech dumptcp

Transmission Control Protocol (TCP) パッケージをコンソールにダンプするには、EXEC モードで **tech dumptcp** コマンドを使用します。

tech dumptcp *gigabit-ethernet*

構文の説明	<i>gigabit-ethernet</i>	ギガビットイーサネットインターフェイスの番号で、0 または 1。
コマンド デフォルト	ディセーブル。	
コマンド モード	EXEC	

```
ncs/admin# tech dumptcp 0
140816:141088(272) ack 1921 win 14144
08:26:12.034630 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141088:141248(160) ack 1921 win 14144
08:26:12.034635 IP dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221 > NCS.cisco.com.ssh: . ack 139632
win 64656
08:26:12.034677 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141248:141520(272) ack 1921 win 14144
08:26:12.034713 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141520:141680(160) ack 1921 win 14144
08:26:12.034754 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141680:141952(272) ack 1921 win 14144
08:26:12.034756 IP dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221 > NCS.cisco.com.ssh: . ack 140064
win 65520
08:26:12.034796 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141952:142112(160) ack 1921 win 14144
1000 packets captured
1000 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
ncs/admin#
```

telnet

Telnet をサポートしているホストにログインするには、operator (ユーザー) または EXEC モードで **telnet** コマンドを使用します。

telnet *[ip-address / hostname] port number*

構文の説明	<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字。
	<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。最大 64 文字の英数字。
	<i>port number</i>	(オプション) リモート ホストのポート番号を示します。0～65,535 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
ncs/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
ncs.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul  2 08:45:24 on ttyS0
ncs/admin#
```

terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

terminal length *integer*

構文の説明	<i>integer</i>	画面の行数。0～511 行の範囲で指定します。0 を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。
-------	----------------	--

コマンド デフォルト 24 行。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン システムは **length** の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定しません。

```
ncs/admin# terminal length 0
ncs/admin#
```

terminal session-timeout

すべてのセッションに対する非アクティブタイムアウトを設定するには、EXEC モードで **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

terminal session-timeout *minutes*

構文の説明	<i>minutes</i>	非アクティブ タイムアウトの分数を設定します。0 ~ 525,600 の範囲で指定します。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。
コマンド デフォルト	30 分。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	terminal session-timeout コマンドをゼロに設定すると、タイムアウトが設定されません。	
	<pre>ncs/admin# terminal session-timeout 40 ncs/admin#</pre>	

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定します。

terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザーに表示される初期メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

terminal session-welcome *string*

構文の説明	<i>string</i>	初期メッセージ。最大 2,023 文字の英数字。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	2048 文字未満のメッセージを指定します。	
	<pre>ncs/admin# terminal session-welcome Welcome ncs/admin#</pre>	

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>terminal session-timeout</code>	すべてのセッションに対して、非アクティブタイムアウトを設定します。

terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで **terminal terminal-type** コマンドを使用します。

terminal terminal-type *type*

構文の説明	<i>type</i>	端末の名前とタイプを定義し、そのサービスのタイプを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。最大 80 文字の英数字。
コマンド デフォルト	VT100。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	デフォルトの VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。	

```
ncs/admin# terminal terminal-type vt220
ncs/admin#
```

traceroute

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **traceroute** コマンドを使用します。

traceroute [*ip-address* | *hostname*]

構文の説明	<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字。
	<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。最大 32 文字の英数字。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	

```
ncs/admin# traceroute 172.16.0.11
```

```
tracert to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
 1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms

ncs/admin#
```

undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで **undebug** コマンドを使用します。

undebug {*all* / *application* / *backup-restore* / *cdp* / *config* / *copy* / *icmp* / *locks* / *logging* / *snmp* / *system* / *transfer* / *user* / *utils*}

構文の説明	
<i>all</i>	すべてのデバッグをディセーブルにします
<i>application</i>	<p>アプリケーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>operation</i> : アプリケーションの操作のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。
<i>backup-restore</i>	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。

<i>cdp</i>	<p>Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。
<i>config</i>	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。
<i>copy</i>	<p>コピー コマンド。</p>

<i>icmp</i>	<p>ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
<i>locks</i>	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>file</i> : ファイルロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。
<i>logging</i>	<p>ロギング コンフィギュレーションファイル。</p> <p><i>all</i> : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</p>
<i>snmp</i>	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</p>
<i>system</i>	<p>システム ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。
転送	<p>ファイル転送。</p>
<i>user</i>	<p>ユーザーの管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。

<i>utils</i>	ユーティリティ コンフィギュレーションファイル。 <i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。
--------------	---

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

```
ncs/admin# undebug all
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug	コマンド状況のエラーまたはイベントを表示します。

write

Cisco EPNM サーバーの設定をコピー、表示、または消去するには、EXEC モードで適切な引数を指定して **write** コマンドを使用します。

write {*erase* | *memory* | *terminal*}

構文の説明

<i>erase</i>	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。このコマンドはデフォルトでは無効になっています。
<i>memory</i>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<i>terminal</i>	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

次に、*erase* キーワードを指定した **write** コマンドの例を示します。

```
epnm-system/admin# write erase
% Warning: 'write erase' functionality has been disabled by application: NCS
epnm-system/admin#
```

show コマンド

この項では、Cisco EPNM の **show** コマンドを取り上げます。コマンドごとに、その使い方の簡単な説明、コマンドのデフォルト、コマンドモード、使用上のガイドライン、コマンドシナクスの例、および関連コマンドを示します。

show application

システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

show application [**status** | **version** [app_name]]

構文の説明	status	version	app_name
	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。	インストールされているアプリケーション (EPNM) のアプリケーションバージョンを表示します。	インストールされているアプリケーションの名前。

表 3: *Count* または *Last* の出力修飾子変数

	出力修飾子変数
	<ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例

```
show application
<name>           <Description>
NCS              EPNM
```

関連コマンド

	説明
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。

show backup history

システムのバックアップ履歴を表示するには、EXEC モードで **show backup history** コマンドを使用します。

show backup history

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例 1

```
erez-esxi-12-vm6/admin# show restore log
Started at: Mon Dec 20 14:30:11 2021
Initiating restore. Please wait ...
Restore Started at 12/20/21 14:30:11
Stage 1 of 9: Transferring backup file ...
- completed at 12/20/21 14:30:11
Stage 2 of 9: Decrypting backup file ...
- completed at 12/20/21 14:30:19
Stage 3 of 9: Unpacking backup file ...
- completed at 12/20/21 14:30:20
Stopping Cisco Evolved Programmable Network Manager server ...
Stage 4 of 9: Decompressing backup ...
- completed at 12/20/21 14:32:13
Stage 5 of 9: Restoring Support Files ...
- completed at 12/20/21 14:32:29
Stage 6 of 9: Restoring Database Files ...
- completed at 12/20/21 14:33:49
Stage 7 of 9: Recovering Database ...
completed at 12/20/21 14:35:23
```

show banner pre-login

```

Stage 8 of 9: Updating Database Schema ...

- completed at 12/20/21 14:35:34
Stage 9 of 9: Re-enabling Database Settings ...
completed at 12/20/21 14:47:22
Total Restore duration is: Oh:17m: 11s
INFO: Restore completed successfully.

Starting Evolved Programmable Network Manager ...

This may take a while (10 minutes or more) ...

Evolved Programmable Network Manager started successfully.

Completed in 2189 seconds
Finished at: Mon Dec 20 15:24:26 2021

```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ (Cisco EPNM) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	バックアップから指定リポジトリのファイル内容を復元します。
repository	バックアップ設定のリポジトリ サブモードを入力します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

show banner pre-login

インストールしたバナーを表示するには、EXEC モードで **show banner pre-login** コマンドを使用します。

show banner pre-login

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

例

```

epnm-system/admin# show banner pre-login
Banner-Test
epnm-system/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	banner (8 ページ)	プレログインバナーのインストールをイネーブルにします。

show cdp

有効になっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

show cdp {all | neighbors}

構文の説明	all	説明
		イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
	ネイバー	Cisco Discovery Protocol ネイバーを示します。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

例 1

```
ncs/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled ...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.

    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
ncs/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor : 000c297840e5
    Local Interface   : GigabitEthernet0
    Device Type      : L-NCS-1.0-50
    Port              : eth0
    Address           : 172.23.90.114

CDP Neighbor : isexp-esw5
    Local Interface   : GigabitEthernet0
    Device Type      : cisco WS-C3560E-24TD
    Port              : GigabitEthernet0/5
    Address           : 172.23.90.45

CDP Neighbor : 000c29e29926
    Local Interface   : GigabitEthernet0
    Device Type      : L-NCS-1.0-50
    Port              : eth0
    Address           : 172.23.90.115

CDP Neighbor : 000c290fba98
```

show clock

```

Local Interface      : GigabitEthernet0
Device Type         : L-NCS-1.0-50
Port                : eth0
Address             : 172.23.90.111

```

```
ncs/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp holdtime	受信デバイスがルータから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定します。
	cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
	cdp timer	Cisco EPNM サーバーが Cisco Discovery Protocol の更新を送信する頻度を指定します。

show clock

システムソフトウェアクロックの曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

show clock

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

```

epnm-system-196/admin# show clock
Tue Jan 28 04:11:38 IST 2020

```



- (注) 前の例では、**show clock** の出力結果に協定世界時 (UTC)、グリニッジ標準時 (GMT)、英国時間、またはズールー時間が含まれます。

関連コマンド	コマンド	説明
	clock	表示用のシステム クロックを設定します。

show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

show cpu [statistics] [[] []]

構文の説明	statistics	CPU 統計情報を表示します。
	/	出力修飾子変数
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

例 1

```
ncs/admin# show cpu

processor : 0
model      : Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320  @ 1.86GHz
speed(MHz): 1861.914
cache size: 4096 KB
```

```
ncs/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# show cpu statistics
user time:          265175
kernel time:       166835
```

show disks

```

idle time:          5356204
i/o wait time:     162676
irq time:          4055

ncs/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	show disks	すべてのディスクのシステム情報を表示します。
	show memory	使用されているシステムメモリの量をシステムプロセス別に表示します。

show disks

ディスクのファイルシステム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

show disks [] []

構文の説明	/	出力修飾子変数
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **show disks** コマンドは、ディスクファイルシステムを備えたプラットフォームでのみサポートされます。

```
ncs/admin# show disks

temp. space 2% used (17828 of 988116)
disk: 3% used (143280 of 5944440)

Internal filesystems:
  all internal filesystems have sufficient free space

ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cpu	CPU 情報を表示します。
show memory	使用されているシステムメモリの量をシステムプロセス別に表示します。

show icmp_status

Internet Control Message Protocol エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp_status** コマンドを使用します。

```
show icmp_status {> file |}
```

構文の説明

>	出力の方向。
ファイル	標準出力 (stdout) をリダイレクトするファイルの名前。

/

出力修飾子コマンド

- *begin* : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。
- *count* : 出力の行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。
 - | : 出力修飾子コマンド。
- *end* : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。
- *exclude* : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。
- *include* : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。
- *last* : 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
 - | : 出力修飾子コマンド。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例 1

```
ncs/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
ncs/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned off
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
icmp echo	Internet Control Message Protocol (ICMP) のエコー要求を設定します。

show ip route

アプリケーションの IP ルートの詳細を表示するには、EXEC モードで **show ip route** コマンドを使用します。

show ip route {*|*}

構文の説明	>	出力のリダイレクション
		出力修飾子

コマンド デフォルト デフォルトの動作はありません。

コマンド モード EXEC

```

ncs/admin# show ip route
Kernel IP routing table
Destination      Gateway          Genmask          Flags Metric Ref    Use Iface
10.126.168.0    0.0.0.0         255.255.255.0   U        0      0      0 eth0
0.0.0.0         10.126.168.1   0.0.0.0         UG       0      0      0 eth0
Kernel IPv6 routing table
Destination      Metric Ref      Use Iface          Next Hop          Flags
2001::/64        256 0      0 eth0              ::                UA
fe80::/64        256 0      0 eth0              ::                U
::/0             1024 18     0 eth0              fe80::217:dfff:fe29:9800 UGDA
::1/128          0 10127 1 lo                ::                U
2001::20c:29ff:fe6c:8f28/128 0 0 1 lo                ::                U
2001::813d:2d75:7d6:564f/128 0 37 1 lo                ::                U
2001::d992:4889:c9e1:f238/128 0 0 1 lo                ::                U
fe80::20c:29ff:fe6c:8f28/128 0 3 1 lo                ::                U
ff00::/8

```

show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザービリティステータスを表示するには、EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

show interface [GigabitEthernet | Team]

構文の説明	GigabitEthernet	ギガビットイーサネットの詳細を表示します。
	チーム (Team)	チームインターフェイス (仮想ネットワークアダプタ) の詳細を表示します。

/	出力修飾子変数
	<ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。 • <i>count</i> : インターフェイスの行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます (デフォルト : 10 行)。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **show interface** の出力では、インターフェイスに 3 つの IPv6 アドレスがあることがわかります。最初のインターネットアドレス (3ffe 以降) は、ステートレス自動設定を使用した結果です。ステートレス自動設定が機能するには、そのサブネットで IPv6 ルートアドバタイズメントが有効になっている必要があります。次のアドレス (fe80 以降) は、ホストの外部にスコープが存在しないリンク ローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンク ローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス (2001 以降) は、IPv6 DHCP サーバーから取得した結果です。

例 1

```

ncs/admin# show interface
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
          inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

lo        Link encap:Local Loopback
          inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
          inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
          UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
          RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0

```

```

TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:0
RX bytes:649425800 (619.3 MiB) TX bytes:649425800 (619.3 MiB)

sit0    Link encap:IPv6-in-IPv4
        NOARP MTU:1480 Metric:1
        RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:0
        RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)

ncs/admin#

```

例 2

```

ncs/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0    Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
        inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
        inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
        inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
        inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
        UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
        RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:1000
        RX bytes:10699801 (10.2 MiB) TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
        Interrupt:59 Base address:0x2000

```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイスタイプを設定して、インターフェイスコンフィギュレーションサブモードに入ります。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
ipv6 address dhcp	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。

show inventory

Cisco EPNM アプライアンスモデルやシリアル番号など、ハードウェアインベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

show inventory |

構文の説明

/

出力修飾子変数

- *begin* : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。
- *count* : インターフェイスの行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。
- *end* : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。
- *exclude* : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。
- *include* : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。
- *last* : 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

```
epnm-system/admin# show inventory

NAME: "Cisco-VM chassis", DESCR: "Cisco-VM chassis"
PID: Cisco-VM-SPID      , VID: V01 , SN: GITQA6QC26B
Total RAM Memory: 12167972 kB
CPU Core Count: 4
CPU 0: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU E5-4640 0 @ 2.40GHz
CPU 1: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU E5-4640 0 @ 2.40GHz
CPU 2: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU E5-4640 0 @ 2.40GHz
CPU 3: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU E5-4640 0 @ 2.40GHz
Hard Disk Count(*): 1
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 322.10 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 39162 cylinders
NIC Count: 1
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:0C:29:11:51:83
NIC 0: Driver Descr: e1000: eth0: e1000_probe: Intel(R) PRO/1000 Network Connection

(*) Hard Disk Count may be Logical.
epnm-system-61/admin#
```

show logging

システムロギング (syslog) の状態および標準のシステムロギングバッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。


```
show logging {application [application-name]} {internal} {system} |
```

構文の説明	application	アプリケーション ログを表示します。
	<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>tail</i> : Tail システムの syslog メッセージ。 • <i>count</i> : Tail の最終カウント メッセージ数。0 ~ 4,294,967,295。 : 出力修飾子変数 (次を参照)。
	internal	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
	security	セキュリティの syslog メッセージを表示します。
	sync-logs	sync-logs のステータスを表示します。
	system	システムの syslog を表示します。
		出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。 • <i>count</i> : インターフェイスの行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	

使用上のガイドライン このコマンドは、syslogエラーおよびイベントロギングの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ロギングがイネーブルになっているロギングの宛先（コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト）が含まれます。

例 1

```
ncs/admin# show logging system
ADEOS Platform log:
-----

Aug  5 10:44:32 localhost debugd[1943]: [16618]: config:network: main.c[252] [setup]:
Setup is complete
Aug  5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[242]
[setup]: Install initiated with bundle - ncs.tar.gz,
repo - SystemDefaultPkgRepos
Aug  5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[256]
[setup]: Stage area - /storeddata/Installing/.1281030
302
Aug  5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[260]
[setup]: Getting bundle to local machine
Aug  5 10:45:03 localhost debugd[1943]: [17291]: transfer: cars_xfer.c[58] [setup]: local
copy in of ncs.tar.gz requested
Aug  5 10:45:46 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[269]
[setup]: Got bundle at - /storeddata/Installing/.1281
030302/ncs.tar.gz
Aug  5 10:45:46 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[279]
[setup]: Unbundling package ncs.tar.gz
Aug  5 10:47:06 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[291]
[setup]: Unbundling done. Verifying input parameters.
..
Aug  5 10:47:06 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[313]
[setup]: Manifest file is at - /storeddata/Installing
/.1281030302/manifest.xml
Aug  5 10:47:07 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[323]
[setup]: Manifest file appname - ncs
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[386]
[setup]: Manifest file pkgtype - CARS
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[398]
[setup]: Verify dependency list -
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[410]
[setup]: Verify app license -
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[420]
[setup]: Verify app RPM's
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[428]
[setup]: No of RPM's - 9
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[439]
[setup]: Disk - 50
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[325]
[setup]: Disk requested = 51200 KB
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[345]
[setup]: More disk found Free = 40550400, req_disk = 51200
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[450]
[setup]: Mem requested by app - 100
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[369]
[setup]: Mem requested = 102400
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[384]
[setup]: Found MemFree = MemFree:          13028 kB
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[390]
[setup]: Found MemFree value = 13028
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[393]
[setup]: Found Inactive = Inactive:        948148 kB
Aug  5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[399]
```

```
[setup]: Found Inactive MemFree value = 948148
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[409]
[setup]: Sufficient mem found
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[415]
[setup]: Done checking memory...
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[461]
[setup]: Verifying RPM's...
--More--
(prompt Spacebar to continue)
```

例 2

```
ncs/admin# show logging internal

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Enabled
ncs/admin#
```

例 3

```
ncs/admin# show logging internal

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Disabled
ncs/admin#
```

show logins

システムログインの状態を表示するには、EXECモードで**show logins** コマンドを使用します。

show logins cli**構文の説明**

cli **cli** ログイン履歴を一覧表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

```
ncs/admin# show logins cli
root pts/2 10.126.184.230 Fri Aug 9 14:50 still logged in
admin pts/3 10.126.184.230 Thu Aug 1 14:41 - 10:25 (3+19:44)
admin pts/3 10.126.184.230 Thu Aug 1 12:59 - 13:10 (00:10)
admin pts/2 10.126.184.230 Wed Jul 31 19:33 - 10:25 (4+14:51)
admin tty1 Tue Jul 30 20:16 - 08:18 (12:01)
reboot system boot 3.10.0-957.21.3. Wed Jul 31 01:01 - 20:17 (12+19:15)
setup tty1 Thu Jul 25 00:59 - 19:31 (5+18:31)
reboot system boot 3.10.0-957.21.3. Wed Jul 24 17:48 - 19:31 (6+01:42)

wtmp begins Wed Jul 24 17:48:44 2019
```

show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

show memory

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
ncs/admin# show memory
total memory: 1035164 kB
free memory: 27128 kB
cached: 358888 kB
swap-cached: 142164 kB
```

```
ncs/admin#
```

show netstat

ネットワーク接続に関する統計情報を表示するには、EXEC モードで **show netstat** コマンドを使用します。

show netstat{ >| }

構文の説明 > 出力のリダイレクション。

| 出力修飾子。

コマンド デフォルト デフォルトの動作はありません。

コマンド モード EXEC

```
ncs/admin# show netstat
TCP Listeners -----
Active Internet connections (only servers)
Proto Recv-Q Send-Q Local Address           Foreign Address         State
tcp        0      0 0.0.0.0:65000           0.0.0.0:*               LISTEN
tcp        0      0 0.0.0.0:39949           0.0.0.0:*               LISTEN
tcp        0      0 0.0.0.0:111             0.0.0.0:*               LISTEN
tcp        0      0 127.0.0.1:2000          0.0.0.0:*               LISTEN
tcp        0      0 0.0.0.0:6100            0.0.0.0:*               LISTEN
tcp        0      0 0.0.0.0:21              0.0.0.0:*               LISTEN
```

```

tcp      0      0 0.0.0.0:22          0.0.0.0:*          LISTEN
tcp      0      0 0.0.0.0:2012       0.0.0.0:*          LISTEN
tcp      0      0 0.0.0.0:2013       0.0.0.0:*          LISTEN
tcp      0      0 :::61603           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::10755           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::61604           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::31204           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::9992            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::65000           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::8009            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::5001            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::1199            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::111             :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::80              :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::35088           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::21648           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::16113           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::2001            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::61617           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::1522            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::8082            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::6100            :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::21              :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::22              :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::48504           :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::443             :::*                LISTEN
tcp      0      0 :::10555           :::*                LISTEN

```

```

TCP Connections -----
Active Internet connections (w/o servers)
Proto Recv-Q Send-Q Local Address           Foreign Address         State
tcp      0      0 10.126.168.61:22      10.65.57.243:55027    ESTABLISHED

```

show ntp

NTP 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

show ntp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

関連コマンド

コマンド	説明
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェア クロックを同期化します。

show ports

アクティブなポートでリッスンするすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show ports** コマンドを使用します。

show ports [] []

構文の説明

/

出力修飾子変数

- *begin* : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。
- *count* : インターフェイスの行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。
| : 出力修飾子変数。
- *end* : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。
- *exclude* : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。
- *include* : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。
- *last* : 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
| : 出力修飾子変数。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **show ports** コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

```
ncs/admin# show ports
Process : timestensubd (21372)
      tcp: 127.0.0.1:11298
Process : timestenorad (21609)
      tcp: 127.0.0.1:51715
      udp: ::1:28314, ::1:59055, ::1:45113, ::1:49082, ::1:64737, ::1:62570, ::1:19577,
::1:29821
Process : ttcsrvr (21382)
      tcp: 127.0.0.1:16612, 0.0.0.0:53385
Process : timestenrepd (21579)
      tcp: 127.0.0.1:62504, 0.0.0.0:18047
      udp: ::1:51436
Process : timestend (21365)
      tcp: 0.0.0.0:53384
Process : rpc.statd (2387)
      tcp: 0.0.0.0:873
      udp: 0.0.0.0:867, 0.0.0.0:870
Process : timestensubd (21373)
      tcp: 127.0.0.1:43407
Process : portmap (2350)
      tcp: 0.0.0.0:111
      udp: 0.0.0.0:111
Process : Decap_main (21468)
      tcp: 0.0.0.0:2000
      udp: 0.0.0.0:9993
Process : timestensubd (21369)
      tcp: 127.0.0.1:37648
Process : timestensubd (21374)
      tcp: 127.0.0.1:64211
Process : sshd (2734)
      tcp: 172.23.90.113:22
Process : java (21432)
      tcp: 127.0.0.1:8888, :::2080, :::2020, ::ffff:127.0.0.1:8005, :::8009, :::8905,
:::8010, :::2090, :::1099, :::9999, :::61616, :::8080, ::
:80, :::60628, :::8443, :::443
      udp: 0.0.0.0:1812, 0.0.0.0:1813, 0.0.0.0:1700, 0.0.0.0:10414, 0.0.0.0:3799,
0.0.0.0:1645, 0.0.0.0:1646, :::8905, :::8906
Process : monit (21531)
      tcp: 127.0.0.1:2812
Process : java (21524)
      tcp: :::62627
Process : java (21494)
      tcp: ::ffff:127.0.0.1:20515
      udp: 0.0.0.0:20514
Process : tnslnsr (21096)
      tcp: :::1521
Process : ora_d000_ncs1 (21222)
      tcp: :::26456
      udp: ::1:63198
Process : ntpd (2715)
      udp: 172.23.90.113:123, 127.0.0.1:123, 0.0.0.0:123, ::1:123, fe80::20c:29ff:fe6a:123,
:::123
Process : ora_pmon_ncs1 (21190)
      udp: ::1:51994
```

```

Process : ora_mmon_ncsl (21218)
         udp: :::38941
Process : ora_s000_ncsl (21224)
         udp: ::1:49864

ncs/admin#

```

show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

show process |

構文の説明

/

(オプション) 出力修飾子変数 :

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。
- **count** : インターフェイスの行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を追加します。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

```

/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:02 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      events/0
root      6 00:00:00 ?      khelper
root      7 00:00:00 ?      kthread
root      10 00:00:01 ?      kblockd/0
root      11 00:00:00 ?      kacpid
root      170 00:00:00 ?      cqueue/0

```



```

root      173 00:00:00 ?      khubd
root      175 00:00:00 ?      kseriod
root      239 00:00:32 ?      kswapd0
root      240 00:00:00 ?      aio/0
root      458 00:00:00 ?      kpsmoused
root      488 00:00:00 ?      mpt_poll_0
root      489 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root      492 00:00:00 ?      ata/0
root      493 00:00:00 ?      ata_aux
root      500 00:00:00 ?      kstriped
root      509 00:00:07 ?      kjournald
root      536 00:00:00 ?      kauditd
root      569 00:00:00 ?      udevd
root      1663 00:00:00 ?      kmpathd/0
root      1664 00:00:00 ?      kmpath_handlerd
root      1691 00:00:00 ?      kjournald
root      1693 00:00:00 ?      kjournald
root      1695 00:00:00 ?      kjournald
root      1697 00:00:00 ?      kjournald
root      2284 00:00:00 ?      auditd
root      2286 00:00:00 ?      audispd
root      2318 00:00:10 ?      debugd
rpc      2350 00:00:00 ?      portmap
root      2381 00:00:00 ?      rpciod/0

```

```
epnm-admin/admin#
```

表 4: `show process` のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザー。
PID	プロセス ID。
TIME	コマンドが最後に使用された時刻。
TT	プロセスを制御する端末。
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ。

show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで `show repository` コマンドを使用します。

`show repository repository-name`

構文の説明	repository-name	内容を表示するリポジトリの名前。最大 30 文字の英数字。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	

show restore

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	バックアップ（Cisco EPNM と Cisco ADE OS）を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	restore	特定のリポジトリのファイルの内容をバックアップから復元します。
	repository	バックアップ設定のリポジトリ サブモードを入力します。
	show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show restore

復元履歴を表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

show restore {history}

構文の説明

history 復元履歴を表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

```
epnm-system-176/admin# show restore history
Wed Dec 2 21:55:39 IST 2020: restore iol-epnm-discovery-191113-
0832_VER3.7.0.0.159_BKSZ18G_CPU16_MEM3G_RAM15G_SWAP15G_APP_CK2443318487.tar.gpg from
repository
test: success
epnm-system-176/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ（Cisco EPNM と Cisco ADE OS）を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリのファイルの内容をバックアップから復元します。
repository	バックアップ設定のリポジトリ サブモードを入力します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show restore log

自動ログアウトコンソールの場合に最後の復元操作を表示するには、EXEC モードで **show restore log** コマンドを使用します。復元操作や正常な復元操作の実行中にもこのコマンドを実行できます。

show restore log

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	EXEC

例 1

```
epnm-system/admin# show restore log
Started at : Thu Aug 1 14:48:08 2019
Initiating restore. Please wait...
Restore Started at 08/01/19 14:48:08
Stage 1 of 9: Transferring backup file ...
-- completed at 08/01/19 14:48:56
Stage 2 of 9: Decrypting backup file ...
-- completed at 08/01/19 14:50:16
Stage 3 of 9: Unpacking backup file ...
-- completed at 08/01/19 14:50:19
Stopping EPNM server ...
Stage 4 of 9: Decompressing backup ...
-- completed at 08/01/19 14:52:12
Stage 5 of 9: Restoring Support Files ...
-- completed at 08/01/19 14:52:21
Stage 6 of 9: Restoring Database Files ...
-- completed at 08/01/19 14:53:04
Stage 7 of 9: Recovering Database ...
-- completed at 08/01/19 15:21:01
Stage 8 of 9: Updating Database Schema ...
This could take long time based on the existing data size.
-- completed at 08/01/19 16:10:50
Stage 9 of 9: Re-enabling Database Settings ...
-- completed at 08/01/19 16:49:13
Total Restore duration is: 02h:01m:05s
INFO: Restore completed successfully.

Starting Evolved Programmable Network Manager...

This may take a while (10 minutes or more) ...

Evolved Programmable Network Manager started successfully.

Completed in 1477 seconds
Finished at : Thu Aug 1 17:14:13 2019
```

関連コマンド

コマンド	説明
restore	特定のレポジトリのファイルの内容をバックアップから復元します。

show running-config

現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

show running-config

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

show running-config コマンドを実行すると、すべてのコンフィギュレーション情報が表示されます。

コマンド モード

EXEC

```

ncs/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 172.16.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xmMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

ncs/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	configure	設定モードを開始します。
	show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show startup-config

スタートアップコンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXECモードで **show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

show startup-config コマンドは、すべてのスタートアップコンフィギュレーション情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

```

ncs/admin# show startup-config
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 172.16.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!

```

show security-status

```

cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
ncs/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	configure	コンフィギュレーションモードを開始します。
	show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show security-status

セキュリティ関連の設定情報を表示するには、EXEC モードで **show security-status** コマンドを使用します。

show security-status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

例

```

epnm-system/admin# show security-status

Open TCP Ports  : 21 22 80 443 1522 8078 8080 8082 8087 9992 20828 61617
Open UDP Ports  : 69 162 514 9991

FIPS Mode       : disabled
SSH Legacy      :
Algorithms      : enabled

TFTP Service    : enabled
FTP Service     : enabled

JMS port(61617) : enabled
Root Access     : enabled

Certificate validation settings for pubnet
Cert check      : enabled
OCSP check      : disabled
Auto CA update  : enabled

Certificate validation settings for system
Cert check      : trust-on-first-use
OCSP check      : disabled
Auto CA update  : disabled

```

```

Certificate validation settings for devicemgmt
Cert check      : enabled
OCSP check     : disabled
Auto CA update  : enabled

Certificate validation settings for user
Cert check      : enabled
OCSP check     : disabled
Auto CA update  : disabled

Algorithm settings enabled for SSH service
KexAlgorithms  :
diffie-hellman-group16-sha512,diffie-hellman-group14-sha256,ecdh-sha2-nistp521,ecdh-sha2-nistp384,ecdh-s
ha2-nistp256,diffie-hellman-group18-sha512,diffie-hellman-group14-sha1,diffie-hellman-group-exchange-sha256,diffie-hellman
-group-exchange-sha1,diffie-hellman-group1-sha1
MACs           : hmac-sha2-512,hmac-sha2-256,hmac-sha1
Ciphers        :
aes128-gcm@openssh.com,aes128-ctr,chacha20-poly1305@openssh.com,aes256-ctr,aes256-gcm@openssh.com,aes192
-ctr,3des-cbc,aes128-cbc,aes256-cbc

TLS versions   : TLSv1.2
TLS ciphers    : tls-ecdh-sha1

Note : Shows currently configured values
Changes made after last system start if any,
will be effective after next restart

```

show tech-support

電子メールなどのテクニカルサポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support file [word]

構文の説明	file	任意のテクニカルサポートデータをファイルとしてローカルディスクに保存します。
	word	保存するファイル名。最大 80 文字の英数字。

コマンドデフォルト パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **show tech-support** コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco EPNM サーバーに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカルサポートの担当者に出力を提供します。

```

ncs/admin# show tech-support
#####
Application Deployment Engine(ADE) - 2.0.0.568
Technical Support Debug Info follows...
#####

```

show terminal

```

*****
Checking dmidecode Serial Number(s)
*****
None
VMware-56 4d 14 cb 54 3d 44 5d-49 ee c4 ad a5 6a 88 c4

*****
Displaying System Uptime...
*****
12:54:34 up 18:37, 1 user, load average: 0.14, 0.13, 0.12

*****
Display Memory Usage (KB)
*****
total      used      free      shared    buffers    cached
Mem:      1035164  1006180   28984      0         10784     345464
-/+ buffers/cache: 649932 385232
Swap:    2040244   572700   1467544

*****
Displaying Processes (ax --forest)...
*****
  PID TTY          STAT TIME  COMMAND
   1 ?            Ss   0:02  init [3]
   2 ?            S<   0:00  [migration/0]
   3 ?            SN   0:00  [ksoftirqd/0]
   4 ?            S<   0:00  [watchdog/0]
   5 ?            S<   0:00  [events/0]
--More--
(prompt Spacebar to continue)

ncs/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示します。
show process	アクティブなプロセスに関する情報を表示します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションの内容を表示します。

show terminal

端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を取得するには、EXECモードで **show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

```
ncs/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
ncs/admin#
```

show terminal により、**show terminal** の出力フィールドの説明が表示されます。

表 5: **show terminal** のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 24 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間（単位：分）。

show timezone

システムに設定されているタイムゾーンを表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

show timezone

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

```
epnm-system/admin# show timezone
Asia/Kolkata
epnm-system/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clock timezone	システムの時間帯を設定します。
show timezones	システムで使用可能な時間帯を表示します。

show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

show timezones

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco EPNM サーバーで使用可能なタイムゾーンの例については、「[clock timezone](#)」コマンドを参照してください。

```
ncs/admin# show timezones
Africa/Blantyre
Africa/Dar_es_Salaam
Africa/Dakar
Africa/Maputo
Africa/Accra
Africa/Kigali
Africa/Tunis
Africa/Nouakchott
Africa/Ouagadougou
Africa/Windhoek
Africa/Douala
Africa/Johannesburg
Africa/Luanda
Africa/Lagos
Africa/Djibouti
Africa/Khartoum
Africa/Monrovia
Africa/Bujumbura
Africa/Porto-Novo
Africa/Malabo
Africa/Ceuta
Africa/Banjul
Africa/Cairo
Africa/Mogadishu
Africa/Brazzaville
Africa/Kampala
Africa/Sao_Tome
Africa/Algiers
Africa/Addis_Ababa
Africa/Ndjamena
Africa/Gaborone
Africa/Bamako
Africa/Freetown
--More--
(press Spacebar to continue)

ncs/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show timezone	システムに設定されている時間帯を表示します。
	clock timezone	システムの時間帯を設定します。

show udi

Cisco EPNM アプライアンスの UDI に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

show udi

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

Gen 2 アプライアンスサーバーで **show udi** コマンドを実行したときの出力例を以下に示します。

例 1

```
epnm-system/admin# sh udi
PID: EPNM-UCS-APL-K9
VPID: A0
Serial: FCH1842V1EH

epnm-system-117/admin#
```

show uptime

Cisco EPNM サーバーにログインしてから経過した時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

show uptime |

構文の説明	/	(オプション) 出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
-------	---	---

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
ncs/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
ncs/admin#
```

show users

Cisco EPNM サーバーにログインしているユーザーの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

show users

構文の説明	show users status	ロール、無効状態、ロック状態など、すべてのユーザーの詳細を表示します。
-------	--------------------------	-------------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
ncs/admin# show users
USERNAME      ROLE      HOST      TTY      LOGIN      DATETIME
admin         Admin    10.77.137.60 pts/0    Fri0000    Aug 6 09:45:47 2019
ncs/admin#
```

show version

システムのソフトウェアバージョンに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

show version

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

このコマンドを実行すると、Cisco EPNM サーバーで稼働している Cisco ADE-OS ソフトウェアのバージョン情報と Cisco EPNM のバージョンが表示されます。

```
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 6.7
ADE-OS Build Version: 6.7.9.001
ADE-OS System Architecture: x86_64
```

```
Copyright (c) 2009-2020 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: erez-esxi-12-vm6
```

```
Version information of installed applications
-----
```

```
Cisco EPN Manager
*****
Version : 6.0.0 [FIPS not Enabled]
Build : 6.0.0.0.000
```

コンフィギュレーションコマンド

ここでは、コンフィギュレーションコマンドとその使い方の簡単な説明、コマンドのデフォルト、コマンドシンタックス、コマンドモード、使用上のガイドライン、コマンド例、および該当する場合の関連コマンドを示します。

コンフィギュレーション コマンドには **interface** と **repository** が含まれます。



- (注) 一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンド コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用する必要があります。

aaa authentication

外部認証を設定するには、コンフィギュレーションモードで **aaa authentication** コマンドを使用します。

aaa authentication tacacs+ server *TACACS server address key plain shared-key*

構文の説明	<i>TACACS server address</i> <i>shared-key</i>	TACACS+ サーバの IP アドレスまたはホスト名。 共有秘密テキスト文字列を示します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	設定	

```
admin# aaa authentication tacacs+ server 1.1.1.5 key plain Secret
admin# username tacacsuser password remote role network-admin
```

TACACS+ サーバーに Cisco EPNM サーバーと同じユーザー名が設定されており、Cisco EPNM サーバーと TACACS+ サーバーが正しく統合されていることを確認します。

backup-staging-url

パーティションのディスク容量が少なく、バックアップを取得できない場合に、このオプションを使用して Cisco EPNM でネットワーク ファイルシステム (NFS) 共有を設定できます。これを行うには、コンフィギュレーションモードで **backup-staging-url** コマンドを使用します。

backup-staging-url *word*

構文の説明	<i>word</i>	ステー징領域の NFS URL。2048 文字までの英数字で指定します。 nfs://server:path を使用します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (Configuration)	
使用上のガイドライン	URL は NFS のみです。コマンドの形式は、 backup-staging-url nfs://server:path です。	



注意 使用している NFS サーバーのセキュリティを設定して、Cisco EPNM サーバーの IP アドレスからのみディレクトリにアクセスできるようにしてください。

```
ncs/admin(config)# backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
ncs/admin(config)#
```

cdp holdtime

受信デバイスが Cisco EPNM サーバーからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでの保持時間を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp holdtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] cdp holdtime *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	ホールドタイムを秒数で指定します。値は10～255秒です。
-------	----------------	-------------------------------

コマンド デフォルト 180 秒

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

cdp holdtime コマンドに指定できる引数は1つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

```
ncs/admin(config)# cdp holdtime 60
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

	説明
cdp timer	Cisco EPNM サーバーが Cisco Discovery Protocol の更新を送信する頻度を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

cdp run

Cisco Discovery Protocol を有効にするには、コンフィギュレーションモードで **cdp run** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] cdp run [*GigabitEthernet | Team*]

構文の説明	<i>GigabitEthernet</i>	Cisco Discovery Protocol を有効にするギガビットイーサネットインターフェイスを指定します。
	チーム (<i>Team</i>)	Cisco Discovery Protocol を有効にするチームインターフェイスを指定します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (Configuration)	
使用上のガイドライン	このコマンドでは、1つのオプションの引数（インターフェイス名）を指定します。オプションのインターフェイス名を指定しない場合、このコマンドは、すべてのインターフェイス上で Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。	



- (注) このコマンドのデフォルトでは、すでに実行されているインターフェイスで動作します。インターフェイスの起動時に、最初に Cisco Discovery Protocol を停止します。次に、Cisco Discovery Protocol を起動します。

```
ncs/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	説明
cdp holdtime	受信デバイスが Cisco EPNM サーバーから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでの保持時間を指定します。
cdp timer	Cisco EPNM サーバーが Cisco Discovery Protocol の更新を送信する頻度を指定します。

cdp timer

Cisco EPNM サーバーが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp timer** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] cdp timer *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	Cisco EPNM サーバーが Cisco Discovery Protocol の更新を送信する頻度を秒単位で指定します。値は 5 ~ 254 秒です。
-------	----------------	--

コマンドデフォルト 60 秒

コマンドモード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

cdp timer コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

```
ncs/admin(config)# cdp timer 60
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

	説明
cdp holdtime	受信デバイスが Cisco EPNM サーバーからの Cisco Discovery Protocol パケットを破棄するまでの保持時間を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーションモードで **clock timezone** コマンドを実行します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *timezone*

構文の説明

タイムゾーン 標準時に表示する時間帯の名前。最大 64 文字の英数字。

コマンドデフォルト UTC

コマンドモード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン システムは、内部で、協定世界時 (UTC) を維持します。具体的なタイムゾーンがわからない場合、地域、国、および都市を入力できます。

表 6: 共通の時間帯

略語または名前	時間帯名
欧州	

略語または名前	時間帯名
GMT、GMT0、GMT-0、GMT+0、UTC、Greenwich、Universal、Zulu	グリニッジ標準時 (UTC)
GB	英国
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間 (UTC)
CET	中央ヨーロッパ標準時 (UTC + 1 時間)
EET	東ヨーロッパ時間 (UTC + 2 時間)
米国とカナダ	
EST、EST5EDT	東部標準時、UTC - 5 時間
CST、CST6CDT	中央標準時、UTC - 6 時間
MST、MST7MDT	山岳部標準時、UTC - 7 時間
PST、PST8PDT	太平洋標準時、UTC - 8 時間
HST	ハワイ標準時、UTC - 10 時間

表 7: オーストラリアのタイムゾーン

オーストラリア脚注。			
ACT脚注。	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	LHI脚注。	Melbourne
North	NSW脚注。	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

- ³ (1) 国と都市をスラッシュ (/) で区切って入力します (例 : Australia/Currie) 。
- ⁴ (2) ACT = オーストラリア首都特別地域
- ⁵ (3) LHI = ロードハウ島
- ⁶ (4) NSW = ニューサウスウェールズ

表 8: アジアのタイムゾーン

アジア脚注。			
Aden脚注。	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	Bahrain	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	Brunei	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Colombo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
Kuwait	Krasnoyarsk		

⁷ (1) アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。

⁸ (2) 地域と都市または国をスラッシュ (/) で区切って入力します (例: Asia/Aden)。



(注) これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。Cisco EPNM サーバーで、**show timezones** コマンドを入力します。Cisco EPNM サーバーで使用可能なすべてのタイムゾーンのリストが表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。

```
epnm-admin/admin(config)# conf t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
epnm-admin/admin(config)# clock timezone Asia/Kolkata
epnm-admin/admin(config)#
```

関連コマンド

	説明
show timezones (106 ページ)	システムで使用可能な時間帯を一覧表示します。
show timezone (105 ページ)	システムに現在設定されている時間帯を表示します。

do

コンフィギュレーションモードまたは任意のコンフィギュレーションサブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するには、任意のコンフィギュレーションモードで **do** コマンドを使用します。

do

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

表 9: *Do* コマンドのコマンドオプション

	説明
application install	特定のアプリケーションをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーションをアップグレードします。
backup	バックアップ (Cisco EPNM と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	Cisco EPNM サーバーに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
clock	Cisco EPNM サーバーのシステムクロックを設定します。
configure	設定モードを開始します。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
debug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザー管理など) で、エラーまたはイベントを表示します。

	説明
delete	Cisco EPNM サーバーのファイルを削除します。
dir	Cisco EPNM サーバー上のファイルを一覧表示します。
forceout	特定の Cisco EPNM ノードユーザーのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	Cisco EPNM サーバーを無効にするか、シャットダウンします。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
patch	システムまたはアプリケーションのパッチをインストールします。
pep	インライン PEP ノードを設定します。
ping	リモート システムの IPv4 ネットワーク アクティビティを判断します。
ping6	IPv6 リモート システムの IPv6 ネットワーク アクティビティを判断します。
reload	Cisco EPNM サーバーを再起動します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	Cisco EPNM サーバーに関する情報を表示します。
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。

	説明
terminal session-timeout	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートをトレースします。
undebg	さまざまなコマンド状況（たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など）で、 debug コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）をディセーブルにします。
write	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワーク コンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 設定

使用上のガイドライン このコマンドは、サーバーの設定中に、EXEC コマンド (**show**、**clear**、**debug** コマンドなど) を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーション モードに戻ります。

```
ncs/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 172.16.168.183
!
```

```

ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--

ncs/admin(config)#

```

end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーション モードで **end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のコンフィギュレーション モードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

```

ncs/admin(config)# end
ncs/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	コンフィギュレーションモードを終了します。

コマンド	説明
<code>exit</code> (EXEC)	Cisco EPNM サーバーからログアウトすることで、アクティブな端末セッションを閉じます。

exit

コンフィギュレーションモードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーションモードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

設定

使用上のガイドライン

exit コマンドは、Cisco EPNM サーバーで現在のコマンドモードを終了して、CLI モード階層の次に高いコマンドモードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **exit** コマンドを使用します。コンフィギュレーションサブモードで **exit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションモードに戻ります。最上位の EXEC モードで **exit** コマンドを使用すると、EXEC モードが終了し、Cisco EPNM サーバーから切断されます (**exit** (EXEC) コマンドについては、「[exit](#)」を参照してください)。

```
ncs/admin(config)# exit
ncs/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>end</code>	コンフィギュレーションモードを終了します。
<code>exit</code> (EXEC)	Cisco EPNM サーバーからログアウトすることで、アクティブな端末セッションを閉じます。

hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーションモードで **hostname** コマンドを使用します。システムからホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。これで、システムのホスト名が `localhost` にリセットされます。

[no] hostname word

構文の説明	<i>word</i>	ホストの名前。2～64文字の英数字と下線（ <code>_</code> ）で指定します。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	設定	
使用上のガイドライン	シングルインスタンスタイプのコマンドである hostname は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には1つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。	

```

ncs/admin(config)# hostname ncs-1
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
Are you sure you want to proceed? [y/n] y
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping NCS Application Server...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping NCS Database processes...
Starting NCS Database processes...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting NCS Application Server...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Note: NCS Processes are initializing. Use 'show application status ncs'
      CLI to verify all processes are in running state.

ncs-1/admin(config)#

ncs-1/admin# show application status ncs

NCS Database listener is running, PID: 11142
NCS Database is running, number of processes: 29
NCS Application Server is still initializing.
NCS M&T Session Database is running, PID: 11410
NCS M&T Log Collector is running, PID: 11532
NCS M&T Log Processor is running, PID: 11555
NCS M&T Alert Process is running, PID: 11623

ncs-1/admin#

```

icmp echo

インターネット制御メッセージプロトコル（ICMP）のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーションモードで **icmp echo** コマンドを使用します。

icmp echo {off|on}

構文の説明	off	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
-------	-----	------------------------

interface

on	ICMP エコー応答をイネーブルにします。
----	-----------------------

コマンド デフォルト システムは ICMP エコー応答がオン（イネーブル）の場合と同様に動作します。

コマンド モード コンフィギュレーション（Configuration）

```
ncs/admin(config)# icmp echo off
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show icmp_status	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示します。

interface

インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface** コマンドをコンフィギュレーション モードで使用します。



- (注) VMware 仮想マシンには、使用可能なインターフェイスが複数あることがあります。これは、仮想マシンに追加されたネットワークインターフェイス（NIC）の数によって異なります。

interface GigabitEthernet ip-address

構文の説明

GigabitEthernet	ギガビットイーサネットインターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビットイーサネットポートの数。
チーム（Team）	チームインターフェイスを設定します。
0 ~ 255	設定するチームポートの番号。



- (注) **interface** コマンドでギガビットイーサネットポートの番号を入力すると、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーションサブモードが開始されます（次のシンタックスの説明を参照）。

do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます（「do」を参照）。
----	---

end	config- {GigabitEthernet Team} サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	config- {GigabitEthernet Team} コンフィギュレーション サブモードを終了します。
ip	イーサネットインターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します（「 ip address 」を参照）。
ipv6	DHCPv6 サーバーから IPv6 自動設定アドレスおよび IPv6 アドレスを設定します（「 ipv6 address autoconfig 」および「 ipv6 address dhcp 」を参照）。
no	このモードのコマンドを否定します。2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ip : インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 • shutdown : インターフェイスをシャットダウンします。
shutdown	インターフェイスをシャットダウンします（「 shutdown 」を参照）。
virtual-ip	仮想 IP 機能を設定します。追加のサブインターフェイス/IP を既存の IP に追加します。一般的な「 interface 」コマンドをすべてサポートします。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 設定

使用上のガイドライン **interface** コマンドは、さまざまな要件をサポートするサブインターフェイスを設定するために使用します。

```
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config-GigabitEthernet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。

コマンド	説明
<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<code>shutdown</code> (インターフェイスコンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「 <code>shutdown</code> 」を参照)。

ipv6 address autoconfig

IPv6 ステータス自動設定を有効にするには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで `ipv6 address autoconfig` コマンドを使用します。インターフェイスからアドレスを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`[no] ipv6 address autoconfig [default][0]`

構文の説明

デフォルト (オプション) デフォルトルータがこのインターフェイス上で選択されている場合は、`default` キーワードによってデフォルトルータがインストールされます。
default キーワードは、1つのインターフェイス上でしか指定できません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン IPv6 ステータス自動設定には、予測可能な IP アドレスを持つというセキュリティ面の落とし穴があります。この落とし穴は、プライバシーの拡張によって解決されます。`show` コマンドを使用して、プライバシー機能拡張が有効になっていることを確認できます。

IPv6 アドレス自動設定は、Linux ではデフォルトでイネーブルです。Cisco ADE は、有効になっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーションで IPv6 アドレス自動設定を示します。

例 1

```
ncs/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
ncs/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
ncs/admin#
```

IPv6 自動設定が有効になっている場合、実行コンフィギュレーションでは次のようなインターフェイス設定の出力が表示されます。

!

```
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
```

インターフェイス設定を表示するには、**show interface** コマンドを使用できます。例 2 では、インターフェイスには 3 個の IPv6 アドレスが設定されていることがわかります。最初のアドレス (3ffe以降) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。ステートレス自動設定が機能するには、そのサブネットで IPv6 ルートアドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス (fe80 以降) は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス (2001 以降) は、IPv6 DHCP サーバーから取得されます。

例 2

```
ncs/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64  Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
```

```
ncs/admin#
```

show interface コマンドを使用して、プライバシー機能拡張が有効になっていることを確認できます。2 つの自動設定アドレスが表示されます。1 つのアドレスはプライバシー拡張なしで、もう 1 つのアドレスはプライバシー拡張ありです。

次の例 3 では MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 で非 RFC3041 アドレスには MAC が含まれています。プライバシー拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

表示される出力は、次の例に示されています。

例 3

```
ncs/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64  Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:9430102 (8.9 MiB)  TX bytes:466204 (455.2 KiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
```

```
ncs/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>show interface</code>	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
	<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
	<code>shutdown</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「 <code>shutdown</code> 」を参照)。
	<code>ipv6 address dhcp</code>	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
	<code>show running-config</code>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ipv6 address dhcp

IPv6 アドレス DHCP を有効にするには、コンフィギュレーション モードで `ipv6 address dhcp` コマンドを使用します。インターフェイスからアドレスを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

[no] ipv6 address dhcp [rapid-commit] [0]

構文の説明	[rapid-commit]	(オプション) アドレス割り当てに 2 メッセージ交換方式を許可します。
	[0]	設定するギガビットイーサネット/チームおよび仮想 IP ポート番号。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (Configuration)	
使用上のガイドライン	なし。	

```

ncs/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# end
ncs/admin#

```

DHCPv6 IPv6 がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```

!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!

```



- (注) IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP は相互に排他的ではありません。同じインターフェイスに IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方を指定できます。どの IPv6 アドレスが特定のインターフェイスで使用されているかを表示するには、**show interface** コマンドを使用します。

IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```

!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!

```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「 shutdown 」を参照)。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ipv6 address static

静的 IPv6 アドレスを割り当てるには、コンフィギュレーション モードで **ipv6 address static** コマンドを使用します。インターフェイスからアドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 address static [ipv6 address] [0]

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン なし。

```
admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address static 0:0:0:0:ffff:a7e:a9d2
admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 default-gateway 0:0:0:0:ffff:ffff:ffe0
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。
ipv6 address dhcp (126 ページ)	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。

ip address

インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用します。IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] ip address ip-address netmask



(注) 複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

構文の説明

ip-address	IPv4 バージョンの IP アドレス。
netmask	関連付けられた IP サブネットのマスク。

コマンド デフォルト 有効。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン アドレスとネットマスクを必ず1つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

```
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
```


To verify that NCS processes are running, use the 'show application status ncs' command.
 ncs/admin(config-GigabitEthernet)#

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>shutdown</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスを無効にします (「 <code>shutdown</code> 」を参照)。
	<code>ip default-gateway</code>	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
	<code>show interface</code>	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
	<code>interface</code>	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。

ip default-gateway

IP アドレスを指定してデフォルトゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーション モードで `ip default-gateway` コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

[no] ip default-gateway ip-address

構文の説明	ip-address	デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
コマンド デフォルト	ディセーブル。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (Configuration)	
使用上のガイドライン	複数の引数を指定した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。	

```
ncs/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネットインターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。

ip domain-name

Cisco EPNM サーバーがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーションモードで **ip domain-name** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] ip domain-name word

構文の説明	word	ホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名。2～64文字の英数字で指定します。
-------	------	--

コマンド デフォルト イネーブル。

コマンド モード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン 入力した引数が多すぎる場合または不足している場合、エラーが発生します。

```
ncs/admin(config)# ip domain-name cisco.com
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	説明
ip name-server	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。

ip name-server

ドメインネームサーバー (DNS) クエリーの実行時に使用する DNS サーバーを設定するには、コンフィギュレーションモードで **ip name-server** コマンドを使用します。1～3台の DNS サーバーを設定できます。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注) このコマンドの **no** 形式を使用すると、設定からすべてのネームサーバーが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、その IP ネームサーバーだけが削除されます。

[no] ip name-server ip-address [ip-address*]}

構文の説明	<i>ip-address</i>	ネームサーバーのアドレス。
-------	-------------------	---------------

<i>ip-address*</i>	(オプション) 追加のネームサーバの IP アドレス。 (注) ネームサーバは、最大 3 台設定できます。
--------------------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 設定

使用上のガイドライン **ip name-server** コマンドを使用して追加された最初のネームサーバは最初の位置に配置されます。システムはそのサーバを最初に使用して、IP アドレスを解決します。

ネームサーバは、最大数（3 台）に達するまで、一度に 1 台またはすべてをシステムに追加できます。システムにすでに 3 台のネームサーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネームサーバを追加できません。

1 台のネームサーバを最初の位置に配置して、サブシステムがまずそのサーバを使用するようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネームサーバを削除してから処理を進める必要があります。

```
ncs/admin(config)# ip name-server 209.165.201.1
```

To verify that NCS processes are running, use the 'show application status ncs' command.
ncs/admin(config)#

Cisco EPNM サーバを再起動しないように選択できますが、それでも変更は有効になります。

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-name	サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

ip route

スタティックルートを設定するには、コンフィギュレーションモードで **iproute** コマンドを使用します。スタティックルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip route prefix mask gateway ip-address

no ip route prefix mask

構文の説明

prefix	宛先の IP ルートプレフィクス。
mask	宛先のプレフィクス マスク。

gateway	ルート固有のゲートウェイ
ip-address	ネットワークに到達するために使用可能なネクストホップの IP アドレス。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン スタティック ルートは手動で設定されます。これによって、柔軟性が低くなります (ネットワークトポロジの変更に対応できません) が、安定性は非常に高くなります。スタティックルートでは、維持するためにルーティングの更新を送信される必要がないため、帯域幅使用率が最適化されます。また、ルーティング ポリシーの実施が容易になります。

```
ncs/admin(config)# ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2
ncs/admin(config)#
```

logging

システムによるリモートシステムへのログの転送や、ログレベルの設定を有効にするには、コンフィギュレーションモードで **logging** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] logging {ip-address | hostname} {loglevel level}

構文の説明	ip-address	ログを転送するリモートシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字。
	hostname	ログを転送するリモートシステムのホスト名。最大 32 文字の英数字。
	loglevel	logging コマンドのログレベルを設定するコマンド。
	セキュリティ	セキュリティロギングのコマンド。
	sync-logs	継続的なログ収集を設定してリポジトリと同期を取るためのコマンド。

level

ログメッセージを設定する希望のプライオリティレベルの番号。プライオリティレベルは以下のとおりです（キーワードの番号を入力）。

- **0-emerg**（致命的）：システムが使用不可。
- **1-alert**（アラート）：ただちに処置が必要。
- **2-crit**（クリティカル）：クリティカルな状態。
- **3-err**（エラー）：エラー状態。
- **4-warn**（警告）：警告状態。
- **5-notif**（通知）：正常であるが、重要な状態。
- **6-inform**（デフォルト）：情報提供メッセージ。
- **7-debug**（デバッグ）：デバッグメッセージ。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 設定

使用上のガイドライン このコマンドでは、IP アドレス、ホスト名、**loglevel** キーワードのいずれかを指定する必要があります。これらの引数を複数指定するとエラーが発生します。

例 1

```
ncs/admin(config)# logging 209.165.200.225
ncs/admin(config)#
```

例 2

```
ncs/admin(config)# logging loglevel 0
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	システムのログリストを表示します。

ncs run diag

このコマンドを使用して、システムをトラブルシューティングするために `ncs diag` を展開または展開解除できます。これにより、`ncsDiag` ページが利用可能になり、スレッドダンプ、DBQuery などのさまざまなサービスにアクセスしてデータベースクエリを確認できるため、問題のデバッグに役立ちます。このコマンドを展開した後、https://<epnmn_server_ip>/webacs/ncsDiag.do から `ncsDiag` ページにアクセスできます。

ncs run diag -deploy

ncs run diag -remove

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

```
epnm/admin# ncs run diag -remove
Undeploying the ncsdiag app
```

```
epnm/admin# ncs run diag -deploy
NCS diag web app is deployed
```



(注) 「`ncs run diag -deploy`」の実行後に `ncsDiag` ページにアクセスしようとして問題が発生した場合、最初に「`ncs run diag -remove`」を実行してから「`ncs run diag -deploy`」を実行するように求められます。

ntp server

NTP サーバーによるシステムのソフトウェアクロックの同期を許可するには、コンフィギュレーションモードで **ntp server** コマンドを使用します。最大 5 台のサーバーを許可します。

ntp server {*ntp-server*}

認証されていない NTP サーバでは、次のコマンドを使用します。

ntp server {*ntp-server*}

構文の説明	<i>ntp-server</i>	時計の同期を提供するサーバの IP アドレスまたはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
-------	-------------------	---

コマンド デフォルト デフォルトで設定されているサーバはありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、システムを指定したサーバと同期できるようになります。



(注) 同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show ntp</code>	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

例：NTP サーバの追加

```
ncs/admin(config)# ntp server 192.0.2.1 10 plain password
ncs/admin(config)# ntp server 192.0.2.2 20 plain pass123
```

例：NTP サーバの初期化

```
ncs/admin# sh ntp
epnm-ha-test-237-75/admin# sh ntp
NTP Server 1 : 192.0.2.1 : keyid=10
NTP Server 2 : 192.0.2.2
NTP Server 3 : 192.0.2.3 : keyid=10

unsynchronised
  time server re-starting
  polling server every 64 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
192.0.2.1      .INIT.             16 u   -   64   0   0.000   0.000   0.000
192.0.2.2      .GPS.              1 u   43   64   7 250.340   0.523   1.620
192.0.2.3  192.0.2.2         2 u   41   64   7 231.451   7.517   3.434
```

例：NTP の同期

```
ncs/admin# sh ntp
NTP Server 1 : 192.0.2.1 : keyid=10
NTP Server 2 : 192.0.2.2
NTP Server 3 : 192.0.2.3 : keyid=10

synchronised to NTP server (10.81.254.131) at stratum 2
  time correct to within 569 ms
  polling server every 64 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
192.0.2.1      .INIT.             16 u   -   64   0   0.000   0.000   0.000
*192.0.2.2      .GPS.              1 u   12   64   37 243.863   3.605   4.240
192.0.2.3  192.0.2.2         2 u   8    64   37 231.451   7.517   3.784
```


no-previous-password	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。
no-username	パスワードにユーザー名を含めることを禁止します。
password-expiration-days	パスワードの有効日数。1 ～ 3600 の整数で指定します。
password-expiration-enabled	パスワードの有効期限をイネーブルにします。 (注) password-expiration-enabled コマンドは、他の password-expiration コマンドの前に入力する必要があります。
password-expiration-warning	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。0 ～ 3600 の整数で指定します。
password-lock-enabled	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。
password-lock-retry-count	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとパスワードがロックされます。1 ～ 20 の整数で指定します。
upper-case-required	パスワードに大文字が含まれている必要があります。
special-required	パスワードに特殊文字が含まれている必要があります。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

```
ncs/admin(config)# password-policy
ncs/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
ncs/admin(config-password-policy)# exit
ncs/admin(config)#
```

repository

バックアップを設定するためにリポジトリサブモードを開始するには、コンフィギュレーションモードで **repository** コマンドを使用します。

repository*repository-name*

構文の説明

repository-name

リポジトリの名前。最大 80 文字の英数字。



(注) **repository** コマンドでリポジトリの名前を入力すると、リポジトリ コンフィギュレーション サブモードに切り替わります。

do	EXEC コマンド。
end	リポジトリ コンフィギュレーションサブモードを終了して、EXEC モードに戻ります。
exit	このモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • url : リポジトリの URL。 • user : リポジトリにアクセスするためのユーザー名とパスワード。
url	リポジトリの URL。80 文字までの英数字で指定します (表 10: URL のキーワード (138 ページ) を参照)。
user	アクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。最大 30 文字の英数字。

表 10: URL のキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<i>word</i>	サーバおよびパス情報を含む、リポジトリの URL を入力します。最大 80 文字の英数字。

キーワード	コピー元またはコピー先
disk:	<p>ローカルストレージ。</p> <p>ローカルリポジトリのすべてのファイルを表示するには、show repository repository_name コマンドを入力します。</p> <p>(注) すべてのローカルリポジトリは、/localdisk パーティションに作成されます。リポジトリの URL で disk:/ を指定すると、システムは、/localdisk に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、disk:/backup と入力すると、ディレクトリは /localdisk/backup に作成されます。</p>
ftp:	<p>FTP ネットワーク サーバーのコピー元またはコピー先の URL。 ftp://server/path (1) という URL を使用します。</p>
nfs:	<p>NFS ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 nfs://server:path1 という URL を使用します。</p>
sftp:	<p>SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 sftp://server/path1 という URL を使用します。</p> <p>(注) SFTP リポジトリでは、IP アドレスまたは FQDN と SFTP ストア上の物理パスとの間に // が必要な場合があります。単一のスラッシュでは SFTP リポジトリにアクセスできないことがわかった場合は、スラッシュを追加して、操作をやり直してください。</p> <p>例：</p> <p>リポジトリ SFTP ストア</p> <pre>url sftp://server/path</pre>

キーワード	コピー元またはコピー先
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。tftp://server/path1 という URL を使用します。 (注) Cisco EPNM をアップグレードする際に、TFTP リポジトリは使用できません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

例 1

```
ncs/admin#
ncs/admin(config)# repository myrepository
ncs/admin(config-Repository)# url sftp://example.com//repository//system1
ncs/admin(config-Repository)# user abcd password plain example
ncs/admin(config-Repository)# exit
ncs/admin(config)# exit
ncs/admin#
```

例 2

```
ncs/admin# configure terminal
ncs/admin(config)# repository myrepository
ncs/admin(config-Repository)# url disk:/
ncs/admin(config-Repository)# exit
ncs/admin(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ (Cisco EPNM と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップファイルを表示します。

service

特定のサービスを管理するには、コンフィギュレーションモードで **service** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] service sshd

構文の説明	sshd	Secure Shell Daemon。SSH のデーモンプログラムです。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	コンフィギュレーション (Configuration)	
	<pre>ncs/admin(config)# service sshd ncs/admin(config)#</pre>	

shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **shutdown** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] shutdown

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンドモード	インターフェイス (Interface)
使用上のガイドライン	このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由した Cisco EPNM アプライアンスへの接続が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていなければ、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスに接続できます。

関連コマンド	コマンド	説明
	interface	インターフェイス タイプを設定してインターフェイスモードに入ります。
	ip address (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	イーサネットインターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。

show interface	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
ip default-gateway	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティアクセスストリングを設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server community** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] snmp-server community word ro

構文の説明

<i>word</i>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。最大 255 文字の英数字。
<i>ro</i>	読み取り専用アクセスを指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

設定

使用上のガイドライン

snmp-server community コマンドでは、コミュニティストリングと引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

```
ncs/admin(config)# snmp-server community new ro
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム連絡先情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] snmp-server contact word

構文の説明	<i>word</i>	ノードのシステム連絡先情報を表す文字列。 最大 255 文字の英数字。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (Configuration)	
使用上のガイドライン	なし。	

```
ncs/admin(config)# snmp-server contact Abcd
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	snmp-server host	トラップをリモートシステムに送信します。
	snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティアクセス文字列を設定します。
	snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

snmp-server host

SNMP トラップをリモートユーザーに送信するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server host** コマンドを使用します。トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] snmp-server host {ip-address / hostname} version {1 | 2c} community

構文の説明	<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。最大 32 文字の英数字。
	<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。最大 32 文字の英数字。

version {1 2c}	(オプション) トラップの送信に使用する SNMP のバージョン。デフォルトは 1 です。 version キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 : SNMPv1。 • 2c : SNMPv2C。
-------------------------	--

community	通知処理で送信されるパスワードに類似のコミュニティ ストリング。
------------------	----------------------------------

コマンド デフォルト デイセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション (Configuration)

使用上のガイドライン コマンドでは、一覧に記載されている引数を指定します。指定しない場合、エラーが発生します。

```
ncs/admin(config)# snmp-server community new ro
ncs/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス文字列を設定します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server location** コマンドを使用します。システムロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] snmp-server location word

構文の説明

<i>word</i>	システムの物理ロケーション情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字。
-------------	--------------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 設定

使用上のガイドライン *word* 文字列では、単語の間にアンダスコア (_) またはハイフン (-) を使用することをお勧めします。 *word* 文字列で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符 (") で囲む必要があります。

例 1

```
ncs/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
ncs/admin(config)#
```

例 2

```
ncs/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモートシステムに送信します。
snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティアクセス文字列を設定します。
snmp-server contact	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

username

SSH を使用して Cisco EPNM にアクセスできるユーザーを追加するには、コンフィギュレーションモードで **username** コマンドを使用します。ユーザーがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
[no] username username password {hash | plain} password role {user | network-admin | security-admin} [disabled [email email-address]] [email email-address]
```

既存のユーザーに対しては、次のコマンドオプションを使用します。

```
username username password role {user | network-admin | security-admin} password
```

構文の説明

username

1つの単語のみを入力する必要があります。ハイフン (-)、アンダースコア (_)、およびピリオド (.) を含めることができます。

(注) 初期セットアップでは英数字のみが許可されます。

password	パスワードおよびユーザーロールを指定するために使用するコマンド。
<i>password</i>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザーに指定する必要があります。
hash plain	パスワードのタイプ。最大 34 文字の英数字。
role user network-admin security-admin	ユーザの権限レベルを設定します。
[disabled]	ユーザの電子メールアドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
email <i>email-address</i>	ユーザのメールアドレス。たとえば、 <code>user1@example.com</code> です。

コマンド デフォルト 設定時の初期ユーザです。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **username** コマンドでは、`username` および `password` キーワードの後に、`hash / plain and the admin / user` オプションを指定する必要があります。

例 1

```
ncs/admin(config)# username testuser password hash ##### role network-admin
ncs/admin(config)#
```

例 2

```
ncs/admin(config)# username testuser password plain Secr3tp@swd role network-admin
ncs/admin(config)#
```

例 3

```
ncs/admin(config)# username testuser password plain Secr3tp@swd role network-admin email
admin123@example.com
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド

	Description
password-policy	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
show users	ユーザとそれぞれの権限レベルの一覧を表示します。これにはまた、ログインユーザの一覧も表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。